平成29年度

アーカイブズ・カレッジ 史料管理学研修会 Archives College

長期コース 東京

平成29年 7 月18日(火)~ 8 月 4 日(金) 平成29年 8 月21日(月)~ 9 月 8 日(金)

短期コース 京都

平成29年11月13日(月)~11月18日(土)

主催



国文学研究資料館 国文学研究資料館

# 目次 平成29年度アーカイブズ・カレッジ

# 短期コース

<ul><li>・アーカイブズ・カレッジの概要 ――――</li><li>・短期コース日程表 ――――</li></ul>		3
・短期コース日程表		7
・平成29年度アーカイブズ・カレッジ講師名簿		9
・アーカイブズ学に関する主な文献 ―――		11
I アーカイブズ総論		
1. 現代のアーカイブズとアーキビストの役割	大友一雄 ————	15
Ⅱ アーカイブズ論		
1. アーカイブズ資源論	渡辺浩一 ————	19
Ⅲ アーカイブズ管理論		
1. アーカイブズ・レコード・マネジメント論	安藤福平 —————	23
2. 民間アーカイブズ・コントロール論	太田尚宏	27
3. アーカイブズと情報コントロール	古賀 崇 ———————————————————————————————————	33
4. アーカイブズの整理と目録編成	西村慎太郎 ————	37
5. 自然科学系のアーカイブズ	菊谷英司 —————	41
6. アーカイブズの保存環境と劣化損傷の予防	青木 睦 ————	43
7. アーカイブズの保存修復	金山正子・青木 睦 ―――	
8. アーカイブズの公開と普及活動	加藤聖文 ————	65
Ⅳ アーカイブズ管理の実際		
1. 地域とアーカイブズ	河野未央	67
2. 民間アーカイブズの管理と利用	大塚活美 ————	71
総括討論	青木 睦·加藤聖文 ——	77

# アーカイブズ・カレッジの概要

### I アーカイブズ学とは

#### ■アーカイブズ学の定義

紀元前の粘土板文書から現代の音声映像記録や電子記録まで、人間は、多様かつ厖大な記録 records を生み出し続けてきた。そのなかには、歴史的文化的な遺産として、あるいは行政や経営上の情報資源として永続的な価値をもつものが多く含まれている。

このような記録を記録史料 archives として永く保存し、現代と未来の社会に活かし続けていくための総合科学、これがアーカイブズ学 archival science である。

#### ■アーカイブズ学の研究対象

アーカイブズ学の特徴は、その研究対象の広さにあろう。取り扱うアーカイブズの種類は、国の行政文書から民間企業や個人の記録にまで及び、記録の媒体も、粘土板から磁気ディスクまで実に多様である。さらに、地球的な規模で急速に進みつつある情報化の波にアーカイブズの世界も呑み込まれざるをえない。伝統的な紙記録に加えて新しい電子媒体記録が次々に登場し、情報の発生量は幾何級数的に増大し、情報の交換や保存の方法も、これまでとはまったく異なる電子的な手法が広まった。このような状況のなかで、過去から現代にいたる多様かつ厖大なアーカイブズの保存・活用システムを効果的に築き上げる新たな学問体系の構築が要請されている。

また、アーカイブズ管理の理論的実務的研究の範囲も、歴史学的分析を必要とする目録記述法から、物理的化学的な保存修復技術、公開に際しての法律知識、さらには組織運営まで、かなり幅広い。とくに、情報量が増大している現代社会にあっては、保存すべき記録をどう評価・選別するか、市民に対してどのように公開していくか、さらには社会構造の変化のなかで組織をどのように運営していくかが極めて大きな問題になっている。これもアーカイブズ学の重要な研究課題である。

これらのことから、アーカイブズ学には、歴史学、史料学、情報学、保存科学、法律学、行政学、 経営学など、多方面の学問分野との連携が不可欠である。

#### ■アーカイブズ学研究の現状

欧米のいわゆる archival science は、19世紀以来の伝統を持ち、アーキビストを中心にした研究の蓄積にも厚いものがある。わが国では国文学研究資料館史料館(2004年度から「国文学研究資料館アーカイブズ研究系」に組織替え、2010年度から研究部に統合)が、比較的早くからアーカイブズ学の研究に取り組み、『史料の整理と管理』(1988年、岩波書店刊)などの成果を発表している。また、全国の文書館等の専門職員による研究も盛んになり、その成果の一端は、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)の研究誌『記録と史料』や各文書館等の研究紀要などに発表されてきている。2004年4月に設立された日本アーカイブズ学会は、学会誌『アーカイブズ学研究』を刊行し、研究交流の場も広がりつつある。

しかし、現代の情報化社会の中で、電子文書は伝統的な紙媒体文書に取って代わる勢いがあり、すでに一部の官庁、企業では電子文書による決裁が実施されるに至っている。伝統的な記録のライフサイクルに対応した管理システムの構築や目録作成にとどまらず、電子情報を有効に活用するための新しい記録・アーカイブズ管理システム構築の試みも始まっている。伝統的な理論・技術を融合させながら、多種多様なアーカイブズを保存し、活用するための新たなアーカイブズ学の確立が世界的にも

要請されている段階といえよう。

国文学研究資料館アーカイブズ研究系は、世界の新しい潮流を意識しつつ、2003 年には共同研究の成果をまとめて『アーカイブズの科学』上下 2 巻を発刊し、日本のアーカイブズ学の研究の到達点を示した。また、2004~2009 年度に、3 本の共同研究(経営と文化に関するアーカイブズ研究、東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究、アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究)を進め、諸藩の記録管理に関する『藩政アーカイブズの研究―近世における文書管理と保存ー』(岩田書店、2008 年)、地域に伝存したアーカイブズが有する社会文化環境についての可能性を探った『近世・近代の地主経営と社会文化環境』(名著出版、2009 年)、アーカイブズ認識とシステム構造に関する『アーカイブズ情報の共有化に向けて』(岩田書院、2010 年)、さらに『中近世アーカイブズの多国間比較』(岩田書院、2009 年)を刊行した。2010~2012 年度は共同研究「近世地域アーカイブズの構造と特質」を行い、その成果の一端は『アーカイブズの構造認識と編成記述』(思文閣出版、2014 年)にまとめられた。現在は共同研究「民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究」を進めている。このように、アーカイブズ学の進展につとめてきたが、アーカイブズ学が扱うことが期待される範囲は急速に拡がりを見せており、様々な協業により研究の深化が必要な段階にあるといえる。

なお、20世紀末までの日本におけるアーカイブズ学の研究の歩みは全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『日本のアーカイブズ論』(2003年)、研究論文は「アーカイブズ学文献データベース」 (http://nihuone.nihu.jp/nihu/DBFixForm.do) の利用が便利である。

#### Ⅱ 史料管理学研修会の開始

旧国文学研究資料館史料館は、わが国の近世や近代の文書記録を散逸から守るため、1951(昭和 2 6)年に文部省の一部局として発足した。そして翌年から「近世史料取扱講習会」を開催し、近世の古文書を中心とした史料の保存や整理についての知識の普及に努めてきた。

一方、1987(昭和 62)年の「公文書館法」成立などをきっかけに、わが国でも文書館、公文書館、 資料館等、史料保存利用機関設置の気運がたかまり、これらの機関においてアーカイブズの保存と利 用サービス等の業務をになう専門職員(いわゆるアーキビスト)の養成が急務となった。

史料館では、このような動きに応えるべく、1988(昭和 63)年に、近世史料取扱講習会を拡充するかたちで史料管理学研修会を開設し、近現代史料を含む記録史料の収集、整理、保存、利用等に関する専門的知識と技術の普及に乗りだしたのである。

史料管理学研修会は、史料館教員を中心に関連各分野の専門家の協力を得ながら最新の知識を可能なかぎり広く糾合し、これを研修生に伝えることを第一の目的とするものであった。

#### Ⅲ アーカイブズ・カレッジへの再編

史料管理学研修会は毎年改善に努めてきたが、2002年度から、運営・内容双方の面で大幅に再編 し、名称も「アーカイブズ・カレッジ」に改めた。

その狙いは、①記録史料をめぐる社会環境と、研究の進展を充分に踏まえたカリキュラムの抜本的な改正、②大学院との連携・協力体制の整備、③アーカイブズを取り扱う現職者がより参加しやすい 運営形態への転換である。

①については、10か年に及ぶ研修会の開催経験、外部講師や研修生の意見・要望、アーカイブズを取り巻く社会的な環境変化、そして2003年刊行の論集『アーカイブズの科学』上下2巻の研究成果をふまえることに留意した。②では、アーカイブズ学への関心の高まりの中で、諸大学において関連の新規学科や講義の設置が相次ぎ、大学生・院生のなかにアーカイブズ学について、より体系的に学ぼうとする要望が強いことを踏まえ、大学共同利用機関における大学院教育協力としての性格を明確にし、大学との連携のもとに新しい運営システムを導入した。③では、自治体はじめ大学・企業などにおいてアーカイブズの重要性が認識されるようになり、文書館などが増加するに伴い、様々な機

関の専門職員がアーカイブズ学に関する知識を必要としている一方で、昨今の行財政改革のなかで有職者による研修が一層厳しさを増している状況にあること、こうした社会的変化を念頭に参加の容易さを再編のうえでの留意点とした。

さらに、その後の研究の進展やアーカイブズを取り巻く社会状況の変化に鑑み、2008 年度から運営方法・講義内容などに変更を加えた。講義では、アーカイブズの社会貢献に関する科目を新設し、市民に対するアーカイブズの公開と提供などについて理論と技術を体系的に学べるものとした。また、アーカイブズ管理と連動する現代の記録管理に関する講義を充実させ、整理記述論では情報化を前提に実習を充実させた。これらに関連してアーカイブズが対象とする資源研究に関する講義は、組織構造と記録管理に重点をおいたものとした。参加の容易さに関係して一層の多様性を持たせ、一定の知識・経験を有する有職者の場合は6科目のうち1科目のみ特別聴講を可能とした。なお、この方法による参加者を特別聴講者と称する。

2012年に日本アーカイブズ学会は認定アーキビスト制度を発足させた。これはアーキビスト資格制度への第一歩である。この制度が要求するアーキビスト教育のカリキュラムに対応して、電子記録関係の講義を増やし、科目5を「法制度と組織管理」に改革した。

#### ■アーカイブズ・カレッジ(長期コース)の構成

長期コースの開催期日及び期間は、7月下旬から前期3週間、8月末から後期3週間とし、全体で次の7つの科目を用意する。

- ・アーカイブズ総論(総論・理論)
- ・アーカイブズ資源研究(資源研究)
- ・アーカイブズ管理研究 I (記録管理と評価選別)
- ・アーカイブズ管理研究Ⅱ(記述の実践)
- ・アーカイブズ管理研究Ⅲ (組織管理と社会貢献)
- ・アーカイブズ管理研究IV(保存管理)
- 修了論文

「アーカイブズ総論」は、アーカイブズ学への導入として、アーカイブズ(記録資料/文書館)の基本的な概念、歴史、ならびに現代社会におけるアーカイブズと専門職員(アーキビスト)の役割について総合的に考え、「アーカイブズ資源研究」では人間と記録との関わりの歩みを、組織学などの関連諸科学や記録のライフサイクルなども念頭に考える。

「アーカイブズ管理研究 I・Ⅲ・Ⅲ・Ⅳ」では、多様なアーカイブズを永続的に保存し活用するために、どのような仕組みを備え、これを実現するか、様々な観点から検討することを目的とする。 修了論文は研修生が自由な問題関心からアーカイブズ学に関する研究をまとめるものであり、国文学研究資料館教員が作成指導にあたる。

各科目は、講義・演習・実習・外部施設見学などによって構成される。各科目の最初には、総論的な講義を用意した。

修了論文を除く各科目の授業時間は、90分からなる15回からなり、大学院における授業1科目2単位と同等である。全体では6科目12単位と換算可能である。こうした編成は、大学院との連携・協力体制を意図したことによる。

#### ■各科目の時間配分

各科目の時間配分は、次のような基準を設けて、これに沿うようにした。即ち

- ①1科目を1週間に集中させ、各科目のなかで講義が体系的に理解できるようにしている。
- ②1週間のなかでは、各科目の講義は総論から各論へと体系的に配列されるように努めている。
- ③1日の時間割は、90分授業を4コマとした。このうち原則として前後期第 $1\sim3$ 週の1時間目を修了論文準備の時間とし、研修生が自由に自習することができるものとする。なお、その一部を修了論文指導の時間としても利用することができる。

#### ■科目担当教員の役割

各科目は、国文学研究資料館の担当教員がこれを担当するが、必要に応じて授業の一部を館内外からの適任者に依頼することもある。その際、担当教員は講師を事前に招集して研究会を持つなど、講義内容を相互に検討・調整する機会を作るとともに、外部機関見学の事前準備や引率を行う。また、科目担当教員は科目履修を認定する。

科目担当教員がこのような調整機能を果たすことにより、講師陣と研修生の双方に科目の目的や講義相互の関連性がより明確となり、本カレッジの効果が上がることを期待している。

#### ■修了論文作成と指導

長期コースでは、研修の実を上げるために研修会終了後に修了論文(12,000 字程度)の作成・提出を求め、その評価の上で修了証書を授与する。修了論文準備の時間を多く配置するのは、そのためであるが、あわせて適切な論文指導が欠かせない。よって、当館のアーカイブズ・カレッジ担当教員が分担して、研修生の論文作成を指導するものとする。そのための時間には、修了論文準備および放課後の時間を当て、論文の構想発表も実施する。

#### ■その他の変更事項

#### (1)分割履修について

長期コースは、単年度での履修が望ましいが、とくに現職者などへの配慮から最大3年間にわたる分割履修を認める。ただし、その場合、初年度には必ず〈科目1〉アーカイブズ総論を選択し、また1年間に2科目以上を履修するものとする。

#### (2) 有職者による特別聴講について

アーカイブズの社会的な広がりと、関係する諸機関・団体の成立を踏まえ、一定の知識・経験を有する有職者の場合は6科目のうち1科目のみ特別に聴講を可能とした(特別聴講という)。特別聴講者の受入れ数は、アーカイブズ・カレッジの定員枠30名に余裕がある場合のみとする。複数の希望があり、定員枠を超える場合は社会的な重要性などを考慮して選抜する。

#### ■アーカイブズ・カレッジ(短期コース)について

短期コースは、原則として東京以外の場所(2017年度は京都府)で、11月に6日間の日程で開催している。期間、カリキュラムとも基本的に従来の形態を踏襲することにし、短期間ではあるがアーカイブズ学の全体像をコンパクトに伝えると共に、被災資料保全活動についても理解を深めることを狙いとする。

授業は、長期コースの科目に準じて配置した。その柱は次の通りである。

- アーカイブズ総論
- アーカイブズ論
- アーカイブズ管理論
- アーカイブズ管理の実際

研修会終了後に修了論文(4,000字程度)の作成・提出を求め、その評価の上で修了証書を授与する。

# B. 短期コース(京都会場)

### ●アーカイブズ総論●

アーカイブズの保存と活用の歴史を学び、現代社会における文書館と アーキビストの役割を考える

1. 現代のアーカイブズとアーキビストの役割

国文学研究資料館研究部教授

大友 一雄

# ●アーカイブズ論●

アーカイブズの本質と構造を、情報学・組織学および記録管理学など から多面的に理解する

1. アーカイブズ資源論

国文学研究資料館研究部教授

渡辺 浩一

# ●アーカイブズ管理論●

収集・移管から保存・利用まで、アーカイブズを永続的に守り活かす ための科学的な管理・運用システムを考える

1. アーカイブズ・レコード・マネジメント論

元広島県立文書館員 安藤 福平

2. 民間アーカイブズ・コントロール論

国文学研究資料館研究部准教授

太田 尚宏

3. アーカイブズと情報コントロール

天理大学人間学部准教授

古賀 崇

4. アーカイブズの整理と目録編成

国文学研究資料館研究部准教授 高エネルギー加速器研究機構 西村慎太郎 菊谷 英司

5. 自然科学系のアーカイブズ

国文学研究資料館研究部准教授

青木 睦

6. アーカイブズの保存環境と劣化損傷の予防

元興寺文化財研究所研究員

金山 正子・青木 睦

7. アーカイブズの保存修復 8. アーカイブズの公開と普及活動

国文学研究資料館研究部准教授

加藤 聖文

# ●アーカイブズ管理の実際●

実際のアーカイブズ保存利用機関における管理業務の実際について施 設見学を交えながら学び、考える

1. 地域とアーカイブズ

尼崎市立地域研究史料館

河野 未央

2. アーカイブズの管理と利用

京都府立京都学・歴彩館

大塚 活美 大塚 活美

3. アーカイブズの管理と利用(施設見学)

京都府立京都学・歴彩館

※講師の所属は平成29年3月1日現在です

## 平成29年度 アーカイブズ・カレッジ〈短期コース〉日程 (京都会場)

	<b>¾</b> I 9:30 ∼ 11:00		$11:10 \sim 12:40$	Ⅲ 13:40 ~ 15:10	IV 15: 20 ~ 16: 50	
11/13 (月)	開講式 現代のアーカイブズと   (大友・渡辺) アーキビストの役割 (大友一雄)		アーカイブズ資源論 (渡辺浩一)			
11/14 (火)	アーカイブズ・レコード・マネジメント論 (安藤福平)		民間アーカイブズ・コントロール論 (太田尚宏)			
11/15 (水)	アーカイブズと情報コントロール (古賀 崇)		アーカイブズの整理と目録編成 (西村慎太郎)			
11/16 (木)	自然科学系の アーカイブズ (菊谷英司)		地域とアーカイブズ (河野未央)	アーカイブズの管理と利用 (大塚活美)	アーカイブズの管理と利用 (施設見学) (大塚活美)	
11/17 (金)	アーカイブズの保存環境と劣化損傷の予防 (青木 睦)		アーカイブズの保存修復 (金山正子・青木 睦)			
11/18 (土)	アーカイブズの公開と普及活動 (加藤聖文)		総括討論 (青木・加藤)		閉講式 (青木・加藤)	

会場:短期コース 京都府立京都学・歴彩館

# 平成29年度 アーカイブズ・カレッジ講師名簿

	氏名	勤務先	現職	勤務先所在地
	保坂 裕興	学習院大学大学院 人文科学研究科	教授	東京都豊島区目白1-5-1
	熊本 史雄	駒澤大学 文学部歴史学科	教授	東京都世田谷区駒沢1-23-1
	西川 康男	ARMAインターナショナル 東京支部	会長	東京都千代田区鍛治町2-9-12神田徳力ビル 5 F
	太田 富康	埼玉県教育局	生涯学習文化財課文化 財活用・博物館担当 主幹	埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1
	薄井 達雄	神奈川県立公文書館資料課	副主幹	神奈川県横浜市旭区中尾1-6-1
	丸島 和洋	慶應義塾大学文学部非常勤講師 立教大学文学部兼任講師	_	-
	早川 和宏	東洋大学法学部法律学科	教授	東京都文京区白山5-28-20
	魚住 弘久	熊本大学大学院 社会文化科学研究科	教授	熊本県熊本市中央区黒髪2-40-1
	小谷 允志	(株) 出版文化社 アーカイブ研究所	所長	東京都千代田区神田神保町2-20-2 ワカヤギビル2階
長期コース	稲葉 政満	東京芸術大学大学院美術研究科	教授	東京都台東区上野公園12-8
	桐野 文良	東京芸術大学大学院美術研究科	教授	東京都台東区上野公園12-8
	吉田 直人	東京文化財研究所保存科学研究センター 保存環境研究室	室長	東京都台東区上野公園13-43
	佐藤 嘉則	東京文化財研究所保存科学研究センター 生物科学研究室	室長	東京都台東区上野公園13-43
	松下 正和	神戸大学地域連携推進室	特命准教授	兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1
	森本 祥子	東京大学文書館	准教授	東京都文京区本郷7-3-1
	児玉 優子	公益財団法人 放送番組センター	業務課	神奈川県横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター10F
	広部 茂紀	石川県文化財保存修復協会	修復技師会員	石川県金沢市出羽町1-1
	野﨑 仁	石川県文化財保存修復協会	修復技師会員	石川県金沢市出羽町1-1
	小林 仁美	石川県文化財保存修復協会	協会雇用従事者	石川県金沢市出羽町1-1
	入澤 寿美	学習院大学計算機センター	教授	東京都豊島区目白1-5-1
長期・短期	金山 正子	元興寺文化財研究所	文化財調査修復研究 グループリーダー	奈良県奈良市南肘塚町146-1
コース	菊谷 英司	高エネルギー加速器研究機構 KEK史料室	シニアフェロー	茨城県つくば市大穂1-1
	安藤 福平	元広島県立文書館	名誉館員	ı
短期コース	古賀 崇	天理大学人間学部	教授	奈良県天理市杣之内町1050
温朔コース	河野 未央	尼崎市立地域研究史料館	職員	兵庫県尼崎市昭和通2丁目7番16号
	大塚 活美	京都府立京都学・歴彩館	資料課	京都府京都市左京区下鴨半木町1-29
館內教員	大友 一雄	国文学研究資料館	研究主幹	立川市緑町10-3
	渡辺 浩一	国文学研究資料館	教授	立川市緑町10-3
	太田 尚宏	国文学研究資料館	准教授	立川市緑町10-3
	青木 睦	国文学研究資料館	准教授	立川市緑町10-3
	西村 慎太郎	国文学研究資料館	准教授	立川市緑町10-3
	加藤 聖文	国文学研究資料館	准教授	立川市緑町10-3
	宮間 純一	国文学研究資料館	准教授	立川市緑町10-3
施設	国立公文書館			東京都千代田区北の丸公園3-2
	神奈川県立公文書館			神奈川県横浜市旭区中尾1-6-1
	放送ライブラリー			神奈川県横浜市中区日本大通11
	横浜開港資料館			神奈川県横浜市中区日本大通3

# アーカイブズ学に関する主な文献

2017.6

#### [資料集・年表・用語集・事典]

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『日本の文書館運動―全史料協の20年―』

(岩田書院、1996年)

全国歷史資料保存利用機関連絡協議会監修、文書館用語集研究会編『文書館用語集』

(大阪大学出版会、1997年)

小川千代子・高橋実・大西愛編『アーカイブ事典』(大阪大学出版会、2003 年) 中野目徹・熊本史雄編 『近代日本公文書管理制度史料集 中央行政機関編』(岩田書院、2009 年) 小川千代子・菅真城編『アーカイブ基礎資料集』(大阪大学出版会、2015 年)

#### [記録管理論・アーカイブズ論]

安澤秀一『史料館・文書館学への道―記録・文書をどう残すか―』(吉川弘文館、1985年)

大藤修・安藤正人『史料保存と文書館学』(吉川弘文館、1986年)

国文学研究資料館史料館編『史料の整理と管理』(岩波書店、1988年)

岩上二郎『公文書館への道』 (共同編集室、1988年)

作山宗久『文書のライフサイクル』 (法政大学出版局、1995年)

門倉百合子編著『はじめて学ぶ文書管理―レコード・マネジメント入門―』

(ミネルヴァ書房、1996年)

小川千代子『情報公開の源流-30年原則と ICA-』

(岩田書院ブックレット1、岩田書院、1996年)

安藤正人・青山英幸共編著『記録史料の管理と文書館』(北海道大学図書刊行会、1996 年) 安藤正人『記録史料学と現代―アーカイブズの科学をめざして―』(吉川弘文館、1998 年) 小川千代子『世界の文書館』(岩田書院ブックレット5、岩田書院、2000 年)

アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳『記録史料記述の国際標準』

(北海道大学図書刊行会、2001年)

青山英幸『記録から記録史料へ―アーカイバル・コントロール論序説』(岩田書院、2002 年)

鈴江英一『近現代史料の管理と史料認識』 (北海道大学図書刊行会、2002年)

ポール・トンプソン『記憶から歴史へ-オーラル・ヒストリーの世界』(青木書店、2002年)

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『日本のアーカイブズ論』(岩田書院、2003年)

国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』上下(柏書房、2003年)

青山英幸『アーカイブズとアーカイバル・サイエンス―歴史的背景と課題―』

(岩田書院、2004年)

青山英幸『電子環境におけるアーカイブズとレコード―その理論への手引き―』

(岩田書院、2005年)

記録管理学会・日本アーカイブズ学会編『入門アーカイブズの世界―記録と記憶を未来へ―

(翻訳論文集)』(日外アソシエーツ、2006年)

大濱徹也『アーカイブズへの眼―記録の管理と保存の哲学―』 (刀水書房、2007年)

小谷允志『今、なぜ記録管理なのか=記録管理のパラダイムシフト―コンプライアンスと説明責任 のために』(日外アソシエーツ、2008 年)

仲本和彦『研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド』 (凱風社、2008年)

研谷紀夫『デジタルアーカイブにおける「資料基盤」統合化モデルの研究』(勉誠出版、2009 年)安藤正人『アジアのアーカイブズと日本―記録を守り記憶を伝える―』

(岩田書院ブックレット13、岩田書院、2009年)

国文学研究資料館アーカイブズ研究系編『アーカイブズ情報の共有化に向けて』

(岩田書院、2010年)

松岡資明『日本の公文書―開かれたアーカイブズが社会システムを支える―』

(ポット出版、2010年)

松岡資明『アーカイブズが社会を変える』(平凡社新書、2011年)

朝日 崇『実践 アーカイブ・マネジメント―自治体・企業・学園の実務』(出版文化社、2011 年) 全史料協近畿部会編『時を貫く記録の保存-日本の公文書館と公文書管理法-』

(岩田書院、2011年)

マリア・バルバラ・ベルティー二著・湯上良訳

『アーカイブとは何か―石板からデジタル文書まで、イタリアの文書管理―』

(法政大学出版局、2012年)

渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター編

『世界のビジネス·アーカイブズ 企業価値の源泉』 (日外アソシエーツ、2012年) 平井孝典

『公文書管理と情報アクセス―国立大学法人小樽商科大学の「緑丘アーカイブズ」―』 (世界思想社、2013年)

企業史料協議会編『企業アーカイブズの理論と実践』(丸善出版、2013年) 菅真城『大学アーカイブズの世界』(大阪大学出版会、2013年) 小谷允志『文書と記録のはざまで―最良の文書・記録管理を求めて』

(日外アソシエーツ、2013年)

根本彰編『シリーズ図書館情報学3 情報資源の社会制度と経営』

(東京大学出版会、2013年)

国文学研究資料館編『アーカイブズの構造認識と編成記述』 (思文閣出版、2014年) 中京大学社会科学研究所編『知と技術の継承と展開―アーカイブズの日伊比較―』 (創泉堂出版、2014年)

安藤正人他編『歴史学が問う 公文書の管理と情報公開: 特定秘密保護法下の課題』 (大月書店、2015年)

日本図書館情報学会研究委員会編『情報の評価とコレクション形成』

(勉誠出版、2015年)

中野目徹『公文書管理法とアーカイブズ―史料としての公文書―』

(岩田書院ブックレット 18、岩田書院、2015年)

坂口貴弘『アーカイブズと文書管理―米国型記録管理システムの形成と日本』

(勉誠出版、2016年)

エリザベス・シェパード ジェフリー・ヨー著 森本祥子ほか訳

『レコード・マネジメント・ハンドブック:記録管理・アーカイブズ管理のための』 (日外アソシエーツ、2016年)

渡辺尚志編『アーカイブズの現在・未来・可能性を考える』(法政大学出版会、2016年) 国文学研究資料館編『社会変容と民間アーカイブズ』(勉誠出版、2017年)

# 〔社会活動・史料保存運動〕

埼玉県市町村史編さん連絡協議会『地域文書館の設立に向けて』(同会、1987年) 埼玉県市町村史編さん連絡協議会『地域文書館の設立に向けて2―行政文書の収集と整理―』 (同会、1989年)

埼玉県地域史料保存活用連絡協議会『地域文書館の設立に向けて3一諸家文書の収集と整理―』 (同会、1992年)

埼玉県地域史料保存活用連絡協議会『地域文書館の設立に向けて4-地域史料の保存と管理-』 (同会、1994年)

高野修『地域文書館論』(岩田書院、1995年)

高橋 実『文書館運動の周辺』(岩田書院、1995年)

高橋 実『自治体史編纂と史料保存』(岩田書院、1997年)

高野 修『日本の文書館』 (岩田書院ブックレット2、岩田書院、1997年)

安藤正人『草の根文書館の思想』(岩田書院ブックレット3,岩田書院、1998年)

歴史人類学会編『国民国家とアーカイブズ』 (日本図書センター、1999年)

小松芳郎『市史編纂から文書館へ』(岩田書院ブックレット4、岩田書院、2000年)

高橋正彦他編『今日の古文書学』12巻「史料保存と文書館」(雄山閣、2000年)

小川雄二郎『文書館の防災を考える』(岩田書院ブックレット6、岩田書院、2002年)

文書館問題研究会・横浜開港資料館編『歴史資料の保存と公開』

(岩田書院ブックレット7、岩田書院、2003年)

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会資料保存委員会編『データにみる市町村合併と公文書保存』 (岩田書院ブックレット8、岩田書院、2003年)

越佐歴史資料調査会編『地域と歩む史料保存活動』

(岩田書院ブックレット9、岩田書院、2003年)

地方史研究協議会編『歴史資料の保存と地方史研究』(岩田書院、2009年)松下正和・河野未央編『水損史料を救う―風水害からの資料保全』

(岩田書院ブックレット12、岩田書院、2009年)

瀬畑 源『公文書をつかう―公文書管理制度と歴史研究―』(青弓社、2011年) 奥村弘『大震災と歴史資料保存―阪神・淡路大震災から東日本大震災へ―』

(吉川弘文館、2012年)

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』 (岩田書院、2013年)

奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』

(東京大学出版会、2014年)

木部暢子編『災害に学ぶ 文化資源の保全と再生』 (勉誠出版、2015年) 白水智『古文書はいかに歴史を描くのか フィールドワークがつなぐ過去と未来』 (NHKブックス、2015年)

九州史学会·公益財団法人史学会編

『過去を伝える、今を遺す一歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか一』

(山川出版社、2015年)

神奈川地域資料保全ネットワーク編

『地域と人びとをささえる資料一古文書からプランクトンまで』(勉誠出版、2016年)

#### [アーカイブズ資源論・史料学]

『岩波講座日本通史』別巻3「史料論」(岩波書店、1995年)

石上英一『日本古代史料学』(東京大学出版会、1997年)

笠谷和比古『近世武家文書の研究』(法政大学出版会、1998年)

中野目徹『近代史料学の射程―明治太政官文書研究序説』(弘文堂、2000年)

高木俊輔・渡辺浩一編著『日本近世史料学研究―史料空間論への旅立ち―』

(北海道大学図書刊行会、2000年)

檜山幸夫編『台湾総督府文書の史料学的研究―日本近代公文書学研究序説―』

(ゆまに書房、2003年)

丑木幸男『戸長役場史料の研究』 (岩田書院、 2005年)

小池聖一『近代日本文書学研究序説』(現代史料出版、2008年)

国文学研究資料館編『藩政アーカイブズの研究 ―近世における文書管理と保存』

(岩田書院、2008年)

国文学研究資料館編『中近世アーカイブズの多国間比較』(岩田書院、2009年)

林佳世子,オゼル・エルゲンチ,渡辺浩一編『中近世日本とオスマン朝にみる国家・社会・文書』 (東洋文庫、2009 年)

太田富康『近代地方行政体の記録と情報』(岩田書院、2010年)

富田正弘『中世公家政治文書論』(吉川弘文館、2012年)

臼井佐知子・フセイン・ジャン・エルキン・岡崎敦・金炫栄・渡辺浩一編

『契約と紛争の比較史料学―中近世における社会秩序と文書―』(吉川弘文館、2014年)

渡辺浩一『日本近世都市の文書と記憶』(勉誠出版、2014年)

国文学研究資料館編『幕藩政アーカイブズの総合的研究』(思文閣出版、2015年)

上島有『中世アーカイブズ学序説』 (思文閣出版、2015年)

井上幸治『古代中世の文書管理と官人』 (八木書店、2016年)

大津透・桜井英治・藤井譲治・吉田裕・李成市編

『岩波講座日本歴史 第21巻 史料論』(岩波書店、2015年)

国文学研究資料館編

『近世大名のアーカイブズ資源研究―松代藩・真田家をめぐって―』

(思文閣出版、2016年)

湯山賢一『古文書の研究―料紙論・筆跡論―』 (青史出版、2017年)

#### [保存と修復]

遠藤諦之輔『古文書修補六十年―和装本の修補と造本―』(汲古書院、1987年)

鈴木英治『紙の劣化と資料保存―シリーズ本を残す4―』 (日本図書館協会、1993年)

安江明夫ほか編『図書館と資料保存―酸性紙問題からの10年の歩み―』(雄松堂出版、1995年) 記録史料の保存・修復に関する研究集会実行委員会編

『記録史料の保存と修復―文書・書籍を未来に遺す―』 (アグネ技術センター、1995年)

日本写真学会画像保存研究会編『写真の保存・展示・修復』(武蔵野クリエイト、1996年)

国立国会図書館訳『「治す」から「防ぐ」へーIFLA図書館資料の予防的保存対策の原則―』

(シリーズ本を残す9、日本図書館協会、2003年)

「防ぐ技術・治す技術―紙資料保存マニュアル―」編集ワーキング・グループ編著

『防ぐ技術・治す技術―紙資料保存マニュアル―』 (日本図書館協会 2005年)

園田直子編『紙と本の保存科学』(岩田書院、2009年)

大林賢太郎『写真保存の実務』 (岩田書院ブックレット 14、岩田書院、2010 年)

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『劣化する戦後写真―写真の資料化と保存・活用―』

(岩田書院ブックレット 15、2010年)

東京文化財研究所編『文化財の保存環境』 (中央公論美術出版、2011年)

文化財保存修復学会編『災害から文化財を守る』(文化財の保存と修覆14、クバプロ、2012年)

青木睦『被災資料救出から考える史料保存』(けやき出版、2013年)

神庭信幸『博物館資料の臨床保存学』(武蔵野美術大学出版局、2014年)

公益財団法人文化財虫菌害研究所編『文化財IPMの手引き』

(公益財団法人文化財虫菌害研究所、2014年)

RD3プロジェクト編

『被災写真救済の手引き一津波・洪水などで水損した写真への対応マニュアル』

(国書刊行会、2016年)

久留島典子・高橋則英・山家浩樹編『文化財としてのガラス乾板―写真が紡ぎなおす歴史像』 (勉誠出版、2017 年)

# 1. 現代のアーカイブズとアーキビストの役割

研究部 大友 一雄

アーカイブズ総論は、本カレッジへの導入として、アーカイブズ(記録史料・文書館)の基本的概念や歴史、ならびに現代社会におけるアーカイブズとアーキビストの役割について総合的に考えるものである。とくにアーカイブズ学の動向に現代社会の情報環境やグローバル化などに留意しながら、現代におけるアーカイブズ学の動向を伝えることに留意したい。

#### [主な参考文献]

安澤秀一『史料館・文書館学への道-記録・文書をどう残すかー』(吉川弘文館、1985) 大藤修・安藤正人『史料保存と文書館学』(吉川弘文館、1986)

マイケル・ローパー「記録のライフサイクル」

(全国歴史史料保存利用機関連絡協議会編『記録管理と文書館』1987)

アルベルティーン・ガウアー著・矢島文夫他訳『文字の歴史-その起源からから現代まで-』

(原書房、1987)

ウィリアム・ベネドン(作山宗久訳)『記録管理システム』(勁草書房、1988)

国文学研究資料館史料館編『史料の整理と管理』(岩波書店、1988)

岩上二郎『公文書館への道』 (共同編集室、1988)

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会『記録遺産を守るために―公文書館法の意義と今後の課題―』 (同会、1989)

ジョルジュ・ジャン著・矢島文夫監修『文字の歴史』(創元社、1990)

オング, W-G. 『声の文化と文字の文化』(藤原書店、1991)

安澤秀一「社会的集合記憶・人口規模・領域意識」(地方史研究協議会編『異国と九州』所収、1992) 高野 修『地域文書館論』(岩田書院、1995)

高橋 実『文書館運動の周辺』 (岩田書院、1995)

作山宗久『文書のライフサイクル』 (法政大学出版局、1995)

門倉百合子編著『はじめて学ぶ文書管理-レコード・マネジメント入門-』(ミネルヴァ書房、1996)

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『日本の文書館運動-全史料協の20年-』(岩田書院、1996) 安藤正人『記録史料学と現代』(吉川弘文館、1998)

中野目徹『近代史料学の射程』(弘文堂、2000)

小川千代子『世界の文書館』(岩田書院ブックレット5、岩田書院、2000)

アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳『記録史料記述の国際標準』

(北海道大学図書刊行会、2001)

鈴江英一『近現代史料の管理と史料認識』(北海道大学図書刊行会、2002)

青山英幸『記録から記録史料へ-アーカイバル・コントロール論序説』(岩田書院、2002)

青山英幸『アーカイブズとアーカイバル・サイエンスー歴史的背景と課題-』(岩田書院、2004)

青山英幸『電子環境におけるアーカイブズとレコードーその理論への手引きー』(岩田書院、2005) 国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』上・下巻(柏書房、2003)

大友一雄『江戸幕府と情報管理』(臨川書店、2003)

小川千代子・高橋実・大西愛編『アーカイブ事典』(大阪大学出版会、2003)

丑木幸男『戸長役場史料の研究』(岩田書院、2005)

安澤秀一訳『建築記録アーカイブズ管理入門』

(国際アーカイブズ評議会建築記録部会編、ノワール、 2006)

記録管理学会・日本アーカイブズ学会編『入門アーカイブズの世界ー記録と記憶を未来へー』

(日外アソシエーツ、2006)

小谷允志『今、なぜ記録管理なのか=記録管理のパラダイムシフトーコンプライアンスと説明責任の ために』(日外アソシエーツ、2008)

国文学研究資料館『藩政アーカイブズの研究-近世における文書管理と保存』(岩田書院、2008) 国文学研究資料館『中近世アーカイブズの多国間比較』(岩田書院、2009)

松岡資明『日本の公文書』(ポット出版、2010)

小谷允志『今、なぜ記録管理なのか=記録管理のパラダイムシフトーコンプライアンスと説明責任のために』(日外アソシエーツ、2008)

太田富康『近代地方行政体の記録と情報』(岩田書院、2010)

国文学研究資料館『アーカイブズ情報の共有化に向けて』(岩田書院、2010)

松岡資明『アーカイブズが社会を変える 公文書管理法と情報革命』(平凡社新書、2011)

企業史料協議会『企業アーカイブズの理論と実践』(2013)

平井 孝典『公文書管理と情報アクセス』(世界思想社、2013)

国文学研究資料館『アーカイブズの構造認識と編成記述』(思文閣出版、2014)

国文学研究資料館『幕藩政アーカイブズの総合的研究』(思文閣出版、2015)

国文学研究資料館『近世大名のアーカイブズ資源研究』(思文閣出版、2016)

# はじめに アーカイブズの二つの意味

- 1. アーカイブズ原論
- 1.1 記録史料 (アーカイブズ) とは何か
- 1.2 文書館 (アーカイブズ) とは何か
- 1.3 アーカイブズ学とは何か
- 2. 現代の文書館(アーカイブズ)
- 2.1 現代のアーカイブズ 世界/日本
- 2.2 アーカイブズの社会的役割
- 2.3 地域アーカイブズの目的と機能
- 2.4 市民生活とアーカイブズ
- 3. アーキビストの役割と養成
- 3.1 アーキビストの任務
- 3.2 専門的知識と技術
- 3.3 アーキビストの独自性
- 3.4 日本のアーキビスト団体
- 3.5 アーキビスト養成制度の現状と課題

おわりに

# 1. アーカイブズ資源論

研究部 渡辺 浩一

- ・アーカイブズ(記録史料)の本質と構造を、情報学・組織学および史料学などから多面的に理解 する。
- ・アーカイブズの特質を、情報学や組織科学などをも視野に入れて考え、アーカイブズ学が対象と する資源の範囲とその可能性を理解する。また、アーカイブズ管理における資源論の位置を理解し アーカイブズ資源化の視点とアーカイブズが内包する体系性について考える。

#### <参考文献>

アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳『記録史料記述の国際標準』(北海道大学図書刊行会、2001年)

青山英幸『電子環境におけるアーカイブズとレコード』(岩田書院、2005年)

青山英幸「アーカイブズ情報の概念と構造 国際標準(ISAD(G)2nd/ISAAR(CPF)2nd/ISDF)による組織構造体と機能構造体としてのフォンドの統一的把握」

(国文研アーカイブズ研究系編『アーカイブズ情報の共有化に向けて』岩田書院、2010年)

安藤正人『記録史料学と現代』(吉川弘文館、1998年)

太田富康「アーカイブズ機関における編成記述の動向と課題」

(国文学研究資料館編『アーカイブズの構造認識と編成記述』思文閣出版、2014年)

加藤聖文「近現代個人文書の特性と編成記述」(同上)

清原和之「アーカイブズ資料情報の共有と継承―集合記憶の管理を担うのは誰か―」(九州史学会・公益財団法人史学会編『過去を伝える、今を遺す―歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか―』山川出版社、2015年)

芝山裕美「アートプロジェクトにおけるアーカイヴ構築の試み」

(2011年度長期アーカイブズカレッジ修了論文)

中島康比古「現代の記録を未来へ―アーカイビングにかかわる責任の連続―」

(前掲『過去を伝える、今を遺す』2015年)

渡辺浩一「日本近世・近代在地記録史料群の階層構造分析方法について」

(前掲『アーカイブズの構造認識と編成記述』)

#### 1. アーカイブズ資源論とは

a. アーカイブズの定義

基本的定義;現用記録のうち評価選別され保存され公開されたもの。

高度成長以前の文書;時間的経過による選別→現存文書は全て保存

現代文書;アーカイブズ学による選別→選ばれたものだけ保存

\*新しい定義;行為の痕跡が媒体にとどめられた記録のうち、組織や社会により共有化

されたもの。

媒体:紙・電子・音声・画像その他いろいろ(金属・石・土・・・)

b. アーカイブズ資源論とは

記録史料の科学的な利用・提供の理論と技法を学ぶための基礎認識

アーキビストの役割;記録がいつ・どこで・誰によって・どのような経緯で作成され、使用され、

保管されたのかというコンテクスト情報の提供。

こればなぜ必要か? 記録はときどき不完全だから。

記録と記録をつなぐこと=人と記録をつなぐこと

コンテクスト情報の分析が資源論。 資源論にもとづき、管理論が展開する。

例:分析結果の表現が検索手段

なお、コンテクストの多様性

①作成者のコンテクスト 例:『徳川家康文書の研究』

②事案・主題のコンテクスト 例;保育園運営 福祉課文書・保育園文書・保護者文書 以上はいずれもアーカイブズの世界でのコンテクストではない。

#### 2. アーカイブズ学におけるコンテクスト認識方法

(1)<u>出所</u>のコンテクスト(出所原則) =文書を蓄積(授受作成)の側面で理解する。 日本における出所の主要な種類

家 前近代から近現代にかけて長期継続する日本独特の記録史料群

個人家文書から次第に析出されてくる、現代民間記録の一般的あり方。

目的団体 近代・現代の政府・地方自治体・企業・学校その他の組織 アーカイブズ(記録史料)は、出所を単位とする群として存在。

#### (2)記録史料群の階層構造

出所の組織と機能の組み合わせでコンテクストを表現するための方法 フォンドー (サブ・フォンド) ―シリーズ― (ファイル) ―アイテム <出所>―<内部組織> ―<機能>―<綴・袋など>―<単体> という樹形図状に分けていく。

事例;家一古沢家

共同体—六角町

…コンテクスト分析が大きな課題

個人—石川一郎、鈴木荘六、山崎元幹

目的団体--沖縄県・市民団体

…コンテクスト表現が大きな課題

#### 二つの考え方。

a. 組織的コンテクストを重視する。

目的団体文書を、部一課一係という樹形図状の内部組織に従って階層構造を設定する。 職務分掌が明確な組織として存在し、各内部組織が明文化された独自の機能を有することが前 提。内部組織変更や出所統合などの変化に不適応。部局横断的機能のコンテクスト表示には不 向き。

b. 機能的コンテクストを重視する。

目的団体の目的に即した機能やそれを支える諸機能に従って多数のシリーズを設定。 研究所:研究、人事・財務・物品施設管理・・・ 変化に適応。

aからbへの変化。aとbの考え方を柔軟に組み合わせることが重要[渡辺]。

#### 3. アーカイブズ認識の方法変化

- (1)前提条件の変化
  - a. 現代社会の電子情報化

記録の原本性・真正性・信頼性のゆらぎ =電子記録への不断のメタデータ付与 \*メタデータ;標題、作成者、作成日、利用と管理の履歴、記録媒体、フォーマット、フォーマットの変換日などを説明するデータ。

紙媒体はメタ・データが無意識に付与される、利用痕跡が残ることがある。

b. 求められる説明責任

政府・地方自治体・企業における意志決定の透明性 = 内部記録の社会化

c. 組織の在り方の変化

体系的・階層的・樹形図的・固定的・相互排他的な組織から、不定形で柔軟な組織へ

- =記録が帰属する業務単位が自明ではない。
- →内部組織に即して考えると業務プロセス(機能)が表現しにくい。

例;国文学研究資料館

- →記録史料の管理・利用・保存のパラダイム変化
- (2)記録のライフ・サイクル論

ライフ・サイクル 現用 → 半現用 → 非現用

性質 記録records→ <評価・選別> → 記録史料archives

保管場所 原局 → 中間保管庫 → 文書館

システム 記録管理システム アーカイブズ管理システム

法制 国立公文書館法・公文書館法

公文書管理法────

(3) 脱保管時代 現用記録と非現用記録史料の連続体論[青山2005] (⊂二分法批判) アップワードのレコード・コンティニュアム理論[中島、清原] 記録records・組織記録archive・社会記録archives の同時性 行為のプロセス(出所の諸機能)が共用化されることを重視。

記録連続体論を参照すると、組織と機能の双方から階層構造を考える場合、機能を重視する方 向性にならざるをえない。

# 1. アーカイブズ・レコード・マネジメント論

広島県立文書館名誉館員 安藤 福平

# 講義要旨

この講義は、アーカイブズ管理論のうちの記録管理と評価選別を対象とする。従来、記録管理はレコードマネジャー、評価選別はアーキビストの役割とみなされてきた。ところが、1990年代にマクロ評価論、レコード・コンティニュアム論、レコードキーピング論などが登場し、アーカイブズ学のパラダイム転換がおこり、両者を統合すべきという考えが世界の主流となった。アーカイブズ・カレッジ短期コースの「公文書の評価と移管」といった講義題目が、「アーカイブズ・レコード・マネジメント論」となったのは、これを反映したものと考える。記録管理を組み込まなければアーカイブズ管理が成り立たない、ということであろう。

そこで、この講義では、アーカイブズをも包含した記録管理、すなわち、レコード・アーカイブズ・マネジメントについて、原則とその適用(実務)について考察する。講義は、主としてレコード・マネジメントの国際規格 IS015489-1 の第2版に依拠しつつ、講師の実務経験を踏まえ、あわせて、昨年翻訳刊行された『レコード・マネジメント・ハンドブック』を適宜参照しておこなう。

本講義の課題は以上でクリアできていると考えるが、くわえて、評価選別についてとくに論じることにする。日本の現場では、評価選別について「混迷」ともいうべき状況が続いており、どうしてもそこに一石を投ずる必要を感じているからである。講師自身の実体験や日本における現状を踏まえ、諸外国の実践を紹介しながら論じたい。

#### 参考文献【図書】

青山英幸『電子環境におけるアーカイブズとレコード』岩田書院、2005

独立行政法人国立公文書館『「電子公文書等の作成時又は作成前からの評価選別」に係る調査研究

報告書』(2009) http://www.archives.go.jp/about/report/pdf/hyouka\_senbetsu.pdf

小谷允志 『今、なぜレコード・マネジメントなのか=レコード・マネジメントのパラダイムシフト— コンプライアンスと説明責任のために』日外アソシエーツ、2008

坂口貴弘『アーカイブズと文書管理-米国型記録管理システムと日本』勉誠出版、2016

エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー共著(森本祥子ほか訳)『レコード・マネジメント・ハンドブックー記録管理・アーカイブズ管理のための』日外アソシエーツ、2016

(内閣府)「行政文書の管理に関するガイドライン」

http://www8.cao.go.jp/chosei/koubun/hourei/kanri-gl.pdf

『情報及びドキュメンテーション-記録管理-第 1 部:概念及び原理』

(英和対訳版) 日本規格協会翻訳・発行、2016(ISO 15489-1:2016)

廣田傳一郎『自治体のための文書管理ガイドライン―情報公開対応の文書管理の在り方―』

第一法規、2001

同『実践新公文書管理 AKF の理論と実務』ぎょうせい、2010

### 参考文献【論文】

安藤福平「公文書の管理・移管・評価選別について」(『記録と史料』第10号、2000)

http://www.jsai.jp/pdf/+10(02)kirokuAndo.pdf

同「業務分析に基づく評価選別 -広島県立文書館の取り組み-」(『広島県立文書館紀要』第10号、2009) <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki\_file/monjokan/kiyo/kiyo\_10.pdf">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki\_file/monjokan/kiyo/kiyo\_10.pdf</a> 同「アーカイブズ業務と専門職 - 広島県立文書館20年の体験から」

(『アーカイブズ学研究』第20号、2010)

同「「行政文書の管理に関するガイドライン」の意義 -レコード・マネジメント国際標準 (IS015489) の視点から-」 (『広島県立文書館紀要』第11号、2011)

https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki\_file/monjokan/kiyo/kiyo\_11.pdf 同「文書分類の極意―IS015489 準拠・公文書管理法対応―」(『広文協通信』第 21 号、2012)

https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki\_file/monjokan/hirobunkyo/kaihou21.pdf 安藤正人「欧米記録史料学における記録評価選別論の展開

(安藤正人・青山英幸編著『記録史料の管理と文書館』北海道大学図書刊行会、1996) テリー・クック(塚田治郎訳)

「過去は物語の始まりである-1898 年以降のアーカイブズ観の歴史と未来へのパラダイムシフト」 (記録管理学会・日本アーカイブズ学会共編『入門 アーカイブズの世界-記憶と記録を未来に一』 日外アソシエーツ、2006)

中島康比古「レコードキーピングの理論と実践:レコード・コンティニュアムと DIRKS 方法論」 (『レコード・マネジメント』第 51 号、2006)

同「現代の記録を未来へ―アーカイビングに関わる責任の連続」

(九州史学会・公益財団法人史学会編

『過去を伝える、今を遺す―歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか』山川出版社、2015)スー・マッケミッシュ(坂口貴弘、古賀崇訳)「きのう、きょう、あす ― 責任のコンティニュア (記録管理学会・日本アーカイブズ学会共編『入門・アーカイブズの世界』日外アソシエーツ、2006)

渡邊健「記録管理の国際標準「ISO 30300」への期待と和訳試案」(『情報管理』第 57 巻第 5 号、2014) https://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/57/5/57\_315/\_pdf

# 講義内容はじめに

# I レコード・マネジメント(記録管理)とは? レコード・マネジメント、レコード、アーカイブズ

レコードのメタデータ、レコード・システム

# Ⅱ レコード・マネジメントの方針及び責任

### Ⅲ Appraisal (「評価」or「査定」)、組織及び業務活動の分析

Appraisal (評価) の新しい定義 業務活動の分析→レコードの要求事項の特定 (→レコード制御手段の開発)

#### IV レコード制御手段

分類スキーム メタデータ・スキーマ アクセス及び許可規則 処分権限書(レコード・スケジュール)

### V レコードの作成・取り込み・管理のプロセス

レコードの作成 レコードの取り込み レコードの分類及び索引付け アクセス統制 レコードの収納 利用及び再利用 レコードの移行及び変換 処分

### VI 特論:評価選別論

評価選別―私の体験 評価選別の現場―混迷と模索 海外における評価選別論の展開 アーカイブズ学のパラダイム転換と評価選別 無計画法からの脱却―レコードキーピングへ

# 2. 民間アーカイブズ・コントロール論

研究部 太田 尚宏

#### 講義要旨

本講義では、地域に存在する家・個人の記録や親機関との関係が曖昧な記録に対する文書館などの保存機関の役割、具体的な調査法・受入れ方法などについて検討し、民間アーカイブズのコントロールをめぐる新たな議論を提起する。また、各地域のアーキビストによる具体的な取り組みなどについても紹介する。

#### 参考文献

大藤修・安藤正人『史料保存と文書館学』(吉川弘文館、1986年)

牛久市史編さん委員会近世史部会編『牛久市小坂・斎藤家文書概要調査報告書』、牛久市、1993 年) 高橋実『自治体史編纂と史料保存』(岩田書院、1997 年)

越佐歴史資料調査会編『地域と歩む史料保存活動』(岩田書院ブックレット9、2003年)

地方史研究協議会編『歴史資料の保存と地方史研究』(岩田書院、2009年)

国文学研究資料館編『社会変容と民間アーカイブズ―地域の持続に向けて―』(勉誠出版、2017年)

太田富康「市町村文書館の必要性とその役割―「民間史料」保存へのアプローチを中心に―」 (『浦和市史研究』第7号、1992年)

岡部真二「現地調査における史料整理の方法について-原秩序尊重・段階的整理の実践報告-」 (『記録と史料』第3号、1992年)

吉田伸之「現状記録論をめぐって」

(吉田伸之・渡辺尚志編『近世房総地域史研究』、東京大学出版会、1993 年) 宇佐美英機「『文書館学的史料整理論』に考えさせられたこと」

(『地方史研究』第242号、1993年)

山本幸俊「地域史料の保存と文書館ー新潟県立文書館、史料所在調査の試みー」

(『新潟県立文書館研究紀要』第1号、1994年、のち同『近世の村落と地域史料保存』

高志書院、2013年に収録)

斎藤昭「史料保存への地域内の連係を求めて一新潟県立文書館の事例と課題一」

(『秋大史学』第40号、1994年)

太田尚宏「史料調査の『新動向』と自治体史編纂(『歴史評論』第 561 号、1997 年)

小風秀雅「近代私文書の評価・選別に関する方法的試論」

(『「記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」研究レポート』第3号、2000年) 長谷川伸「地域と歩む史料保存活動-越佐歴史資料調査会の活動を中心に-」

(『新潟県立文書館研究紀要』第7号、2000年)

平井義人「アンケートに見る地域史料調査事業の全国的趨勢と問題点」

(『史料館紀要』第6号、大分県立先哲史料館、2001年)

新井浩文「文書館における民間所在資料(古文書)の取り扱いをめぐって」

(『文書館紀要』第15号、埼玉県立文書館、2002年)

高橋実「地域史料調査論」(『アーカイブズの科学』下巻、柏書房、2003年)

新井浩文「どこへ行く古文書―古文書の保存・公開をめぐる現状と課題―」

(『三郷市史研究 葦のみち』第16号、2004年)

保垣孝幸「北区における所蔵者宅保管文書の『巡回燻蒸』—史料保存・利用活動の観点から—」 (『文化財研究紀要』第18集、東京都北区教育委員会、2005年)

白井哲哉「民間史料から文書館・公文書館ををとらえ直す―問題提起として―」

(『地方史研究』第314号、2005年)

松本洋幸「指定管理者制度と地域資料館—横浜市の事例—」(『九州史学』第 148 号、2007 年) 滝沢繁「市町村合併に伴う史料保存状況と利用課題—新潟県魚沼地域の実例を通して—」

(『日本歴史学協会年報』第23号、2008年)

西向宏介「地方自治体文書館の基本理念と『公文書館論』―地域史料(古文書等)の位置付けを中心に―」(『広島県立文書館紀要』第7号、2003年)

西村慎太郎「文書の保存を考える」(『歴史評論』第750号、2012年)

西村慎太郎「概要調査・現状記録再考」

(『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』第9号、2013年)

湯上良「非国有アーカイブズと公的保護―イタリアにおける国家機関の創設―」

(『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』第13号、2017年)

### 講義内容

- はじめに 一民間アーカイブズとは何か
  - ①民間アーカイブズとは何か
    - ・企業の文書
    - ・民間団体の文書
    - 家文書
    - 個人文書
  - ②公文書館法・公文書管理法と民間アーカイブズ
    - 公文書館法
    - 公文書管理法
  - ③アーカイブズ(機関)に期待されるもの
    - ・民間アーカイブズの所在・内容に関する適切な把握
    - ・民間アーカイブズの保存に関する適切な助言・指導
    - ・廃棄・散逸を防ぐための民間アーカイブズの適切な受入れ

# 1. 民間アーカイブズ調査論

- 1-1 社会変容と民間アーカイブズ
  - ①「現地保存」原則の成立と展開
    - ・史料の「現地保存主義」 → 民間アーカイブズが「地域」と結びつく論拠
    - ・日本学術会議「歴史資料保存法について」(勧告)1969年
    - ・史料保存運動の展開と転機
    - アーカイブズ(機関)をめぐる2つの潮流
  - ②近年の社会変容と民間アーカイブズ「滅失」の危機
    - ・地域そのものの変容
    - 行政機構改革の影響
    - ・大規模災害の発生
    - ・アーカイブズ学研究の動向
  - ③「現地保存」への公的サポート
    - ・「現地保存」の現実
    - ・東京都北区行政資料センターによる巡回燻蒸/新潟県立文書館の出張燻蒸
    - ・栃木県立文書館の「古文書保存の相談週間」

# 1-2 民間アーカイブズと地域持続

- ①「民間アーカイブズを使った地域おこし」実践
  - ・岐阜県中津川市加子母での試み
  - ・山守アーカイブズ(内木家文書)
  - ・住民が身近に感じる「生活」資料
- ②民間アーカイブズを地域持続へつなげる
  - ・「生活」の歴史からアーカイブズ保存へ
  - ・地域のアイデンティティーを示す「明治座」
  - ・地域の民間アーカイブズの保存=新たな文化資源の拠点へ

- 1-3 民間アーカイブズの調査方法
  - ①民間アーカイブズの調査主体
  - ②調査の「原則」
    - ・平等取り扱いの原則出所の原則/原秩序(原配列)尊重の原則/原形尊重の原則/記録の原則
  - ③段階的調查(整理)
    - · 概要調查 · 現状記録 / 内容調查 / 構造分析 / 多角的検索手段
  - ④所在確認調查
    - ・昭和47年(1972)の文化庁の国庫補助事業(古文書緊急調査)
    - 自治体史編纂事業による史料所在の悉皆調査
    - ・アーカイブズ機関による史料所在調査
    - ・広島県立文書館による所在確認の追跡調査
    - ・震災を契機に重要度を増す「所在確認調査」
  - ⑤概要調查
    - ・文書群の保存の現状を記録すること
    - ・整理全体計画を立案するために文書群の全体像を把握すること
    - ・茨城県牛久市編さん委員会近世部会『牛久市小坂・斎藤家文書概要調査報告書』
    - ・国文研で受け入れた松尾家文書の概要調査
  - ⑥現状記録
    - · 房総史料調査会/甲州史料調査会
    - ・現状記録からわかること(石井家文書・石坂家文書)
  - ⑦内容調査
    - ・仮目録の作成
    - ・文書群の構造分析へ
  - ⑧民間アーカイブズ調査と所蔵者・地域
    - ・民間アーカイブズを保存するのは、基本的には現地の所蔵者である

#### 2. 民間アーカイブズ受入論

- 2-1 民間アーカイブズの受入れ
  - ①受入れの判断
    - ・所蔵者の意向/現状の保存状態と今後の予測/文書館の収集方針・計画
  - ②寄贈と寄託
    - ・寄贈と寄託
    - ・寄贈・寄託をめぐる社会環境の変化
- 2-2 受入作業の流れ
  - ①搬出作業と記録
  - ②初期段階の保存措置
  - ③受入後の動き

# まとめ ―民間アーカイブズを守る諸外国の取り組みをふまえて―

- ①民間アーカイブズの保存法規の脆弱性 → 諸外国での位置づけを参照
  - ・イギリスの事例 → 全国アーカイブズ登録簿/「公私」のとらえ方/税制優遇など
- ②現地保存とアーカイブズ―その意義と限界― → 社会の変化との関係
- ③受入機関の必要性と課題 → 持ちきれない所蔵者 ⇔ 機関の考え方や物理的スペース

# 3. アーカイブズと情報コントロール

天理大学人間学部 古賀 崇

#### [講義要旨]

本講義は「記録資料(史料)としてのアーカイブズ」および「管理主体としてのアーカイブズ(文書館ほか歴史資料保存機関。以下、文書館の語に代表させ略す)」に対する、情報技術面からの管理(コントロール)について論じる。

ウェブをはじめとするインターネット技術の社会的浸透により、図書館をはじめ文書館・博物館においても所蔵資料の所在(目録)情報、ひいてはデジタル化(複製)した所蔵資料をネット上で提供すること(いわゆる「デジタルアーカイブ」の構築)が日本でも進行している。しかし文書館としては、所蔵資料の内容や文脈・構造をいかにネット上で示すかに留意し、またネット上の資料がもつ訴求力(利用者の目を惹く力)と限界(特にさまざまな技術の持続的な活用が可能か否か)を認識する必要がある。本講義は限られた時間ではあるが、「所在(目録)情報の記述とデータベース化」を中心に、いくつかの実例を示しつつ、アーカイブズと情報技術をめぐる思考法を提示することを試みたい。なお、やや高度なトピックではあるが、図書館・文書館・博物館(LAM)に共通する、情報コントロールの新たな動向にも言及する予定である。

#### 「参考文献:図書またはその一部]

森本祥子「アーカイブズにおける記述標準化の動向」日本図書館情報学会研究委員会編

『図書館目録とメタデータ:情報の組織化における新たな可能性』勉誠出版,2004, p. 145-164. 水谷長志編著『MLA 連携の現状・課題・将来』勉誠出版,2010.

日本図書館情報学会研究委員会編『図書館・博物館・文書館の連携』勉誠出版,2010.

古賀崇「公文書館」「MLA 連携」根本彰編『情報資源の社会制度と経営(シリーズ図書館情報学 3)』 東京大学出版会, 2013, p. 228-241; 241-256; 271-274(注).

『全国の公文書館等におけるデジタルアーカイブ・システムの標準仕様書』(平成24年10月一部改訂) 国立公文書館

(http://www.archives.go.jp/about/report/ よりアクセス可)

岡本真・柳与志夫 責任編集『デジタル・アーカイブとは何か:理論と実践』勉誠出版,2015.

Duranti, Luciana; Franks, Patricia C., eds. Encyclopedia of Archival Science.

Rowman & Littlefield, 2015.

古賀崇「文書資料と文書館・アーカイブズ」日本図書館情報学会研究委員会編

『情報の評価とコレクション形成』勉誠出版, 2015, p. 153-167.

日本図書館情報学会研究委員会編『メタデータとウェブサービス』勉誠出版,2016.

[参考文献:論文など]

小川千代子「ISAD(G)の実装:アジア歴史資料センターの階層検索システム

『レコード・マネジメント』No. 45, 2002, p. 10-25.

(http://doi.org/10.20704/rmsj.45.0\_10 よりアクセス可)

後藤真「京都府行政資料のデジタル・アーカイブ化とその課題: EAD/XML の適用の可能性と歴史学」 『都市文化研究』No. 8, 2006, p. 2-15.

(http://ci.nii.ac.jp/naid/120006006981 よりアクセス可)

五島敏芳・坂口貴弘「EAD、EAC、EAG、そして DACS:アーカイブズ情報の共有・交換は実現するか」 日本図書館研究会 情報組織化研究グループ月例研究会報告資料,2009年10月17日.

(http://josoken.digick.jp/meeting/2009/200910.htmlよりアクセス可)

平野宗明「アジア歴史資料センターから見たデジタル・アーカイブズの現在と展望」

『アーカイブズ学研究』No. 10, 2009, p. 2-23.

後藤真「「デジタル化」とアーカイブズ: "正倉院文書データベース" と近代史料のデジタル化を 通して」『アーカイブズ学研究』No. 10, 2009, p. 24-44.

清水善仁「京都大学大学文書館における所蔵資料検索システムの構築」

『京都大学大学文書館研究紀要』第7号, 2009, p. 89-100.

(http://doi.org/10.14989/70921 よりアクセス可)

清水善仁「アーカイブズ編成・記述・検索システム論の成果と課題」

『アーカイブズ学研究』第11号,2010,p.55-72.

古賀崇「「MLA 連携」の枠組みを探る:海外の文献を手がかりとして」

『明治大学図書館情報学研究会紀要』第2号,2011,p.2-9.

(<a href="http://hdl.handle.net/10291/11113">http://hdl.handle.net/10291/11113</a>よりアクセス可)

五島敏芳「オープンソースのアーカイブ資料情報管理システムの日本語化と試用」

日本図書館研究会 情報組織化研究グループ月例研究会報告資料,2012年9月29日.

(http://josoken.digick.jp/meeting/2012/201209.htmlよりアクセス可)

「特集:歴史学の転回」『情報の科学と技術』第66巻第4号, 2016, p. 142-169. (論文5点)

「特集:2016年度大会 企画研究会「アーカイブズ記述の未来:ライブラリー、ミュージアムとの比

較から」『アーカイブズ学研究』第25号,2016,p. 37-98. (論文4点)

「特集:デジタルアーカイブを支える技術」第67巻第2号,2017,p. 47-78. (論文5点)

(その他、講師ウェブサイトを参照:http://researchmap.jp/T\_Koga\_Govinfo)

[本講義で取り上げる予定のネット上の目録等]

国立公文書館 アジア歴史資料センター http://www.jacar.go.jp/

京都大学大学文書館 所蔵資料検索システム

http://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/bunshokan/index.html

Discovery (英国アーカイブズ資料の横断検索) http://discovery.nationalarchives.gov.uk/

ICA Expert Group on Archival Description (Records in Contexts 関連資料などの提示)

http://www.ica.org/en/about-egad

AtoM (Access to Memory) https://www.accesstomemory.org/en/

#### [講義内容]

- (1)「アーカイブズの情報化」の射程
- ・ 「情報コントロール」について:情報技術(とくにコンピュータによるメタ情報(≒目録情報、メタデータ)管理と情報提供)の利用や原則
- ・ 「アーカイブズの情報化」の諸段階
  - 【1】目録ないしコンテンツのデジタル化
    - (目録の作成)
    - 目録の電子化
    - 目録のデータベース化
    - 目録データベースのウェブ化
    - 目録データベースの共有化(総合目録)
    - 文書等コンテンツそのもののデジタル化(デジタルアーカイブ)

#### 【2】【1】の各要素の維持・管理

- データの更新
- ソフトウェア、ハードウェアの更新・互換性維持
- セキュリティ対策
- いわゆる「デジタルアーカイブ」の位置づけ
- (2) 記録資料の組織化・コントロールと情報技術
- ・ 資料の組織化をめぐる原則と標準:主に図書館と比較しつつ
  - ▶ 図書館資料=資料ごとの独立性が比較的高い。主題での分類
  - ▶ 記録資料=個々の資料(文書)が「群」にまとめられる → 「階層構造」を示す必要性(出 所原則、原秩序尊重の原則)
- 資料の構造とそのネットでの表現:実例に基づく検討
- 3つのステップ
  - ▶ ISAD(G):資料記述(メタデータ)の標準化 「何を書けばよいか」
  - ➤ EAD: 資料記述 (メタデータ) の構造化 (コンピュータでの大量データ処理 が可能に)
  - ▶ 総合目録:資料記述(メタデータ)の共有化
- (3) 情報技術を管理し手なづけるために
- ・「仕様」と「調達」をめぐる課題
  - ▶ 国立公文書館による「標準仕様書」の検討
  - 「自分でつくる(オープンソースに基づく)アーカイブズ・コントロールシステム」の可能性: AtoM など
- ・ 情報セキュリティへの意識
- (4) 応用課題:情報資源・知識資源を管理する主体としての LAM(図書館・文書館・博物館)連携に向けて
- ・ 記録資料の組織化・コントロールの新たな動向
  - ▶ 新たな国際標準としての Records in Contexts (RiC) の提案
  - RiC に先行する図書館・博物館での情報コントロール標準と、背景としての Linked Open Data (LOD) 技術

・ 新たな「知」のかたち:デジタル・スカラーシップ、デジタル・ヒューマニティーズとの接点

# 4. アーカイブズの整理と目録編成

研究部 西村 慎太郎

# 講義要旨

本講義では、記録史料群の階層構造について論じる。基本的な階層構造の考え方を提示した上で具体的な事例を提示する。ここでは

#### 参考文献【図書】

『史料目録 第94集 信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録 (その4)』

(国文学研究資料館、2012年)

『史料目録 第101集 信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録 (その8)』

(国文学研究資料館、2015年)

国文学研究資料館編『アーカイブズの構造認識と編成記述』(思文閣出版、2014年) 国文学研究資料館編『社会変容と民間アーカイブズ 地域持続へ向けて』(勉誠出版、2017年)

#### 参考文献【論文】

安藤正人「記録史料の編成と目録記述」(同『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998年)

安藤正人「記録史料調査の理論と方法」(同『記録史料学と現代』吉川弘文館、1998 年)

大藤修「近世文書の整理と目録編成の理論と技法 ー信州松代八田家(商家)文書を事例にしてー」

(大藤修・安藤正人編『史料保存と文書館学』吉川弘文館、1986年)

西村慎太郎「概要調査・現状記録再考 -民間所在資料保存のために-」

(『国文学研究資料館紀要アーカイブズ研究篇』9、2013年)

西村慎太郎「民間所在資料保全の過去・現在・未来」

(木部暢子編『災害に学ぶ 文化資源の保全と再生』勉誠出版、2015年)

山崎圭「アーカイブズの編成と記述 -近世史料を中心に」

(国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』下、柏書房、2003年)

#### 講義内容

#### はじめに 一講義の目的一

- ①保存の手段のための目録を作成する
- ②利用者が利用しやすいための目録を作成する
- ⇒<u>アイテム―点ごとの情報把握</u>→階層構造把握 →サブフォンド記述(解題)
  - ※アイテム一点ごとの情報把握ができないと十分に階層構造は捉えられない
- ③階層構造:フォンド・サブフォンド・シリーズ・アイテム

#### I:段階的整理論

段階的整理論の前提として文書館学的記録史料論

※安澤秀一『史料館・文書館学への道』、大藤修・安藤正人『史料保存と文書館学』

- ①現状記録・概要調査
- ②アイテムレベルのデータ集積(目録を「取る」作業)
- ③階層構造の模索・目録編成
- ④史料群全体・サブフォンドレベルの記述
- ⑤より高度な検索手段
- ⇒この整理方法は戻ることなく①から⑤まで進む(例えば②を飛ばして④はあり得ない)
- 1-1 現状記録・概要調査

1980 年代半ば 文書館学的記録史料整理論

- ⇒安藤正人の段階的整理論 / 概要調査
- ⇒原秩序の尊重=原秩序の復元を試みるのは原秩序の中に史料群の体系的構造を解明する糸口 ※1990 年代牛久市での実践

房総史料調査会・甲州史料調査会による現状記録法

⇒自治体史編さん側による批判あり

#### 1-2 保存処置

ホコリなどの除去のためのドライクリーニングから水損資料レスキュー(後期第3集) 中性紙封筒:中性から弱アルカリ性で製造された封筒。ph(水素イオン指数)8.5程度

# 1-3 アイテムレベルのデータ集積

文書番号・整理番号(付箋・ラベル・文書封筒)・タイトル・内容・年代・作成者・宛所・形態・員数・その他(一括情報・劣化情報・寸法・印刷形態)

⇒所蔵者・利用者などのニーズにどのように応えるかという課題

# Ⅱ:階層構造の見つけ方

- ①「家」を組織として考える
  - ⇒近世における藩や近現代おける会社のように部局があるわけではない
  - ⇒実体のない内部組織の機能に注目する / 職務分掌として把握
- ②「家」の当主や家族が就任した役職名を見つける。年表を作成する。
  - ⇒名主・戸長・村長・産物会所取締役など
- ③「家」の経営の位相を見つける
  - ⇒醤油・酒造・油・新田開発
- ④図書館学における日本十進分類法的な方法(主題分類)の排除

図書館学における十進分類法⇒主題分類

明治時代前半:六門分類表

1897年 帝国図書館による八門分類

1928年 和洋図書共用十進分類法案発表⇒現在でも改訂が繰り返されている

⇒主題分類に当てはめるのではなく、その文書群に合わせた階層構造把握を目指す

⑤現状記録の着目

文書が保管されていた「現状」に階層構造を理解するヒントが隠されている 現状記録を重視した目録編成という方法もあり

⇒民間所在資料の場合は特に有効(時間的制約)

# **Ⅲ**:サ<u>ブフォンドを考える</u>

山梨県国玉村文書・双葉町泉田家文書・石岡市一色家文書・双葉町廣田家文書の事例

【配布資料】

# IV: 史料群全体・サブフォンドレベルの記述、より高度な検索手段

史料群全体の記述【史料情報共有化データベース参照】

※国文学研究資料館 HP「電子資料館」内「収蔵歴史アーカイブズデータベース」 http://base5.nijl.ac.jp/~archicol/

サブフォンドレベルの記述

⇒いわゆる「解題を書く」作業

#### まとめ

- ・作業に当たっては、経費・人・時間に制約がある
- ・アイテムレベルの記述を重視しないで、早めに閲覧に供するということも可能

# 5. 自然科学系のアーカイブズ

高エネルギー加速器研究機構 菊谷 英司

# 講義要旨

本講義では、自然科学系の国立研究機関(主な研究分野は物理学)である高エネルギー加速器研究機構の史料室での資料採集、保存、目録作りを紹介する。また、卓越した研究者の資料保存施設などの紹介を行う。さらに、最近の物理分野でのデータ保存や共有化の動きについても簡単に触れる。

# 参考文献【図書】

ヴォルフガング・パウリ アーカイブ http://library.web.cern.ch/archives/Pauli\_archiveニールス・ボーア アーカイブ http://www.nbarchive.dk 湯川記念館の資料 http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~youran.oj/archives.html 朝永記念室 http://tomonaga.tsukuba.ac.jp

# 講義内容

#### 始めに

この講義では、講師が所属する高エネルギー加速器研究機構(略称 KEK)でのアーカイブズ活動につき、実経験に基づいた話を進める。KEK は大規模な実験装置(大型加速器を中心とする)を有する大学共同利用機関法人であり、自組織のみならず、組織外からも多くの研究者からの実験研究の提案を受け入れて研究活動を遂行している。そのため、通常の大学と共通する活動と共通しない活動がある。実験提案書の内容の審査などが行われる点が大きな相違点である。一方、各研究者個人の動きは大学と共通したところも多い。

#### I:資料収集の契機

- ▶□ 大学・研究所などの研究機関には当然のことながら研究者と呼ばれる集団が存在するが、その集団だけが存在するわけではなく、その活動を支える技術部門、事務部門の組織があり、全体として研究活動がなされるよう運営される。こうした集団の集まりでは、各集団の中でのコミュニケーション、集団間のコミュニケーションにより書類等の資料が作られる
- ▶□ KEK の中で重要な資料は実験計画提案書である。これは組織内外(外国を含む)の研究者が KEK の大規模実験施設を用いた実験を提案する計画書で、それを委員会(所内外の委員)が「実験の価値あり」かどうかを審議する。この委員会は研究者だけの「密室」ではなく、事務職員も含め、組織的に運営される。その際の資料は KEK の研究の動向を跡付けるための重要な資料となる。
- ▶□ ほかに研究者が具体的な研究活動の過程で作り出す資料がある ---
  - (1) 実験、観測データそのもの、その際の実験観測記録ノート
  - (2) 実験データのダイジェストデータ
  - (3) 論文掲載用データ

多くの場合、論文が完成・出版されると (1),(2) の部分に対する研究者の関心は急速に薄れる。積極的に廃棄されないものの、保存状態は悪くなる。しかし、理研の「スタップ細胞事件」以来、実験観察ノートの保存が強く要請されている。

- アメリカの国立の研究所では、実験ノートを National Archive に保存する制度がある KEK 史料室では、2008年のノーベル物理学賞を受賞した物理理論を実験的に実証した際の実験ノートを保存している
- ▶□ 資料収集の方法:定年退職などで研究所を去る職員、特に所長など要職を務めた人からの寄贈をお願いする。プリントアウトされたデータ、図面、その他の物品は個人の研究室の保存されていることは少ないので、適宜資料室員が保管場所を視察し、判断して管理者に寄贈をお願いする
- ▶□ 実験観測機器の保存

実験・観測を行う研究では、それを行う機器が重要である。しかし、保存には大きな面積を必要とする場合も多く、かなり保存は難しい。

# Ⅱ:資料保存とその意味

- ▶□ 収集された資料は、階層的なデータ構造のデータベースにカタログされる。それは所内の活動の 資料となり、また、所外の科学史研究者に閲覧されることがある。
- ▶□ 史料室の存在の意義
- (1) 自組織のデータを保存することにより、新しいプロジクトの立ち上げや組織改変などの際の資料とする (2) 多くの資金(公的資金)を投じて行っている研究活動の記録、およびその情報発信(広報室との協力)を行う(3)科学史研究の資料の蓄積、(4)科学政策の研究への資料の蓄積
- ▶□ 国立大学や国立の研究機関は公文書管理法との整合性を考える必要ある

#### Ⅲ:卓越した研究者の資料保存

近年、日本でもノーベル賞受賞者が増え、こうした研究者を中心とした卓越した研究者の記録を残すことも(自然科学系に限らないが)重要なことである。

- ・W. Pauli 資料:スイスにある大規模な素粒子物理学の研究所、CERN には W. Pauli の資料が蓄積 されている。W. Pauli は昨年のノーベル物理学賞で有名なニュートリノと呼ばれる素粒子の存在を予 言したことを含む、多くの業績を残した物理学者である。
- ・N. Bohr 資料: N. Bohr は1910年代に原子構造を提唱し、量子力学と呼ばれるそれまでとは全く違う物理体系建設の中心人物の一人である。デンマークのコペンハーゲン大学構内のBohr Arhive に資料が保存されている。
- ・湯川秀樹資料:日本のノーベル賞受賞者第一号で理論物理学者の湯川秀樹は「中間子論」で著名である。資料は京大湯川記念館に保存されている。
- ・ 朝永振一郎資料 湯川秀樹に続き日本で二番目のノーベル賞受者である朝永振一郎の資料は筑波 大学の朝永記念資料室の保管されている。

## Ⅳ:最近のデータ保存の動向

最近は、機関リポジトリーの活動の延長としてデータ公開の動きがヨーロッパを中心として広がっている。これとは趣旨は少し異なるが、自然科学系の大量データの保存や、共有化の動きがある。これは今までのアーカイブズの活動とは異なる視点のものかも知れないが、最近の動向として紹介しておく。

# 6. アーカイブズの保存環境と劣化損傷の予防

研究部 青木 睦

アーカイブズ(記録史料・史料)を「モノ」として保存する場合、史料保存利用機関においては、さまざまな要因による史料の損傷・劣化を防ぎ、できるだけ永く史料を保存していかなければならない。本講義では、保存環境・条件の整備、具体的手段としての手当て(保存容器や保護紙)、および保存管理面での保存庫への収納と配架の問題、その前提となる保存手当ての目的と原則、具体的方法・技術についてとりあげていくことにしたい。最近、最低限の保存手当てで最大の効果がえられるような方法の開発や工夫が紹介されつつあるので、それらの保存用具の条件や各種の実物・事例をあげながら、それぞれの優良性と問題点を検討したい。

保存というと、史料をいれる封筒や修復方法の個別史料に対する処理にはしりがちになるが、劣化の最大の要因は、保存環境・条件にある。とりまく環境の整備が重要なポイントとなるので、それぞれの施設での改善に向けた実践方法についてとりあげることにする。

講義での保存管理対象資料は、アーカイブズで主となる紙に加え、フィルム、電磁気媒体などとする。

\*

「参考文献」 参考文献、参考資料は、当日配布します。

\*

- 1 史料の保存と保護
  - 1.1 目的と原則
  - 1. 2 文書館史料の特徴
    - ・「モノ」としての文書館史料
- 2 史料保存管理計画
  - 2. 1 計画の立案
    - ・長期計画・短期計画、段階的なプログラムの作成と実施
    - ・実践計画と研究
    - ・整理計画との連携、保存手当てのレベル検討
    - マニュアルの作成
  - 2. 2 保存環境と利用環境との調整
    - •環境調査
    - •利用調査
  - 2. 3 所蔵史料全体の把握
    - 所蔵全体→史料群→一点一点
    - ・記録の作成と蓄積
  - 2. 4 保存対策の実施、評価
    - ・目標の明確化と評価の方法

- 3 保存環境・条件
  - 3.1 史料の劣化原因
    - 外的要因:物理的・化学的・生物的・人為的要因
    - 内的要因:物理的(生成構造)• 化学的
  - 3. 2 環境
    - ・建物、温度・湿度、光、大気、虫・黴・動物、災害(→災害対策)、人
    - 収蔵庫・利用環境
  - 3.3 設備収蔵庫、書架、利用設備 規模相応 "共に貧しさを憂うべからず" 日常的な観察と対処 "目通し・風通し"
- 4 史料の維持保存-予防-
  - 4.1 維持保存の原則・方法
  - 4. 2 目録と原形を残す"モノ"の扱い方
    - 4. 2. 1 史料ラベル
    - 4. 2. 2 史料のマトマリのとらえ方
  - 4. 3 維持保存(防護)の方法
    - 4.3.1 用具の条件 \*適合性・安全性・可逆性・耐久性・利便性
    - 4. 3. 2 用具の種類
    - ・容器に入れる(封筒、帙、畳紙、箱、ファイル、フィルム封入)
    - 包む(包紙)
    - ・挟む (保護紙、あて紙)
    - ・あてがう(台紙、補強板)
    - 4. 3. 3 留意点 \*適合性・安全性・可逆性・耐久性・利便性
    - 4. 3. 4 技術の実際
    - ・各種の処置
    - ・ラベル貼付
    - 4. 3. 5 作業の手順
    - ・劣化原因の除去(塵・挨とり)→状態の補整(折れ皺直し、補綴、糊さし)→収納
    - 4. 3. 6 保存容器への記入
    - 記入の事項
    - 4. 3. 7 用具材料·製品
  - 4. 4 代替化
    - 4.4.1 代替化の条件 \*保存面・利用面・原形記録面
    - 4. 4. 2 代替物の条件
    - 4. 4. 3 代替物の媒体選択と方法
- 5 史料の保存修復-対策-
  - 5. 1 保存修復の原則 \*原形保存・安全性・可逆性・記録化
  - 5. 2 修復対象の選択条件
  - 5.3 保存修復の方法
    - · 部分修復 · 全体修復
    - ・自館修復・委託修復
  - 5. 4 修復技術のいろいろ
  - 5. 5 修復の外部委託での留意点

- 6 史料の利用と保存
  - 6.1 保存と利用の対立・両立か
  - 6.2 史料の取扱い
    - ・利用側と保存管理側
- 7 管理面からの保存
  - 7. 1 収蔵史料全体の管理
  - 7. 2 個別の管理
    - ・史料群ごとの状態管理→一点ごとの状態管理
  - 7. 3 史料ラベルと蔵書印
  - 7. 3. 1 目的と方法
    - ・間接表示と直接表示
    - · 貼付位置
- 8 史料の収納
  - 8.1 保存庫(収納場所)の条件
  - 8.2 配架の考え方と方法
    - ・史料群と個別史料の取り扱い
    - ・縦置きと横置き
- 9 史料保存活動の重要性
  - 9. 1 組織的に保存体制を踏まえた人員の確保と配置
  - 9. 2 史料保存管理専門職と史料保存修復専門職・保存科学者の位置と役割
  - 9.3 史料保存利用機関相互の情報交換・研究交流とネットワーク
    - ・保存に関する情報・知識の共有
- 付、①近世における史料保存技術
  - ①所在調査などの整理の初期段暗での保存手当て

# 7. アーカイブズの保存修復

元興寺文化財研究所 金子 正子 研究部 青木 睦

近現代の劣化損傷史料、特に酸性洋紙を対象に、史料状態調書の作成、ならびに脱酸処置と補強のための新たな修復方法に対す技術を学び、簡単な修復実習を行う。

ここでの修復に関する技術は、実際に修復を行う修復専門職(コンサベーター)に対するのとは異なり、保存担当者(Preservation Administrater)として必要となる修復技術を評価できる能力を高めることに重点を置く。さらに、収蔵史料・史料群全体の保存管理のあり方を考える上で重要なデータとなる史料状態調書を的確に作成し、その中で劣化損傷した史料個別の症例に適した修復方法を選択できる能力を築くため、各種の修復方法を実践的に学ぶ。

# 1. リーフキャスティングの方法と実際

- ・近現代史料の劣化症例の特徴
- ・酸性紙に対する修復処置
- ・特殊な記録媒体:特殊紙に対する修復処置
- ・記録定着媒体:記録用インキに対する修復処置
- ・記録定着媒体:印刷用インキに対する修復処置
- ・史料の劣化損傷因子の除去処置-実演と実習
  - a. ドライクリーニング
  - b. ウェットクリーニング
  - c. サクションテーブルクリーニング
  - d. 脱酸 (アルカリリザーブ) 処理
  - 水性脱酸処置
  - 非水性脱酸処置
- ・劣化損傷部分の補修と強化処置-実演と実習
  - a. リーフキャスティング (漉嵌) による紙質強化
- b. リーフキャスティング (漉嵌) による欠損部位補填
- ・インキのニジミ止め処置-実演と実習

# 2. 簿冊の解綴・修復と再製本

- ・解綴の技術と記録作成
- ・補修の技術と記録作成
- 再装丁の技術と記録作成
- ・近現代史料の状態調書の作成-実演と実習
  - a. 状態調書のフォーム
- b. 調書内容
- c. 劣化レベルの判断基準
- d. 状態調書のデータ処理と統計的処理
- 3. 修復技術・システムの評価と修復記録

# 実習メニュー

- 1. 史料の劣化損傷因子の除去処置
- a. ドライクリーニング

刷毛・メス・筆・小型アイロン・粉消しゴム

b. ウェットクリーニング

薄和紙・レーヨンペーパー・濾紙・水・霧吹き・刷毛

c. サクションテーブルクリーニング

薄和紙・レーヨンペーパー・濾紙・水・霧吹き・刷毛

d. 脱酸(アルカリリザーブ)

紙の表面の pH 値測定 pH メーター

水性脱酸 水酸化カルシウム・炭酸カルシウム・炭酸水・トレー 非水性脱酸 Book Keeper 法

- 2. 劣化損傷部分の補修と強化処置
  - a. リーフキャスティング(漉嵌)による紙質強化
  - b. リーフキャスティング(漉嵌)による欠損部位補填 サクションテーブル・ミキサー・プレス・紙繊維・増粘剤(PAM)・水・不織布・濾紙
- 3. インクの鉄イオン試験と滲み止め処置
  - a. インクの鉄イオン試験と耐水性試験 各種インク書きサンプル、鉄イオン試験紙
  - b. 滲み止め処置

各種膠・プライマル AC2235・ハプラロイト B72

- 4. 近現代史料の状態調書の作成
  - a. 状態調書のフォーム
  - b. 調書内容
  - c. 劣化レベルの判断基準
  - d. 劣化調書のデータ処理と統計的処理

# 具体的作業手順

ドライクリーニング

- 1. 文書を敷紙の上にひろげ、表面の汚れを刷毛で丁寧にはらう。
- 2. 折れ目や皺部分は、低温で加圧する。
- 3. 虫損などの喰い跡の汚れはメスかき取る。
- 4. 粉消しゴムを資料表面に散らし、軽く刷毛で撫でて汚れを取る。
- 5. 粉消しゴムが紙の表面の残らないように丁寧に刷毛で落とす。

♪ポイント メスで本紙を傷つけないように!

#### ウェットクリーニング

- 1. レーヨンペーパーを水で台に密着させる。
- 2. レーヨンペーパーの上に本紙をひろげる。
- 3. 必要に応じて本紙に湿りを入れる。
- 4. 水に湿らせた和紙を、刷毛で本紙に密着させ汚れを吸い取らせる。
- 5. 必要におうじて濾紙に挟み加圧する。
- 6. 和紙を剥がす。
- 7. 汚れが和紙についてこないまで繰り返す。

♪ポイント 和紙を水に濡らしすぎないように!

#### サクションテーブルクリーニング

- 1. サクションテーブルの上に文書を密着させる(吸引 ON)。
- 2. 霧吹きで水を吹き付けながら、必要に応じて刷毛で撫でる。
- 3. 汚れが流れ落ちたら、文書を濾紙に挟んで乾燥させる。

♪ポイント 事前に水によって変褪色しないかチェックすること!

# 脱酸(中和処理) · p H測定

- 1. 処理前の本紙表面の p H値を測定する。
- 2. 炭酸カルシウム溶液に CO2 を溶解させる(炭酸水素カルシウム溶液)。
- 3. しばらく沈殿させてうわずみをとる。
- 本紙を炭酸水素カルシウム溶液に浸す。
- 5. 本紙をとりあげて乾燥させる。
- 6. 処理後の本紙表面の p H値を測定する。

♪ポイント CO2 を長時間とおさないこと!

7. BookKeeper 法は、資料に脱酸剤を均一にスプレーする。

♪ポイント 換気のよい場所で行うこと!

# リーフキャスティング

- 1. 和紙をミキサーにかけ水に解離させる。
- 2. PAM 溶液を加え和紙繊維をよく分散させる。
- 3. 本紙を不織布にのせ、水に湿らす。
- 4. サクションテーブルのうえにのせる。
- 5. 必要な面積を枠で囲む。
- 6. 枠の中に繊維を流し込み、吸引する。
- 7. 枠を取り外し、本紙の上に不織布をのせる。
- 8. 濾紙にはさんで乾燥させる。
- 9. 乾燥したら不織布をはがす。

♪ポイント 吸引を強くしすぎないこと!

#### インクの鉄イオン試験

- 1. 鉄イオン試験紙を小さく切って純粋で湿らす。
- 2. インク部分に湿らせた試験紙をのせ、30 秒間押さえる。
- 3. 試験紙の色変化を判定する。

♪ポイント 試験紙を湿らせすぎないこと。ピンク色になったらアクティブ。

#### インクの滲み止め

- 1. インクのサンプル試料の滲み加減を綿棒でスポットテストする。
- 2. 試料に各種滲み止め(兎膠・B72・AC3444)を上から塗る。
- 3. 完全に乾いたら、試料を水にひたす。
- 4. 滲み止めの種類・濃度による滲みの違いを観察する。

♪ポイント 水に弱いインクを確認すること!

#### 近現代史料の状態調書の作成

- 1. 対象資料に存在する支持体(紙)と記録素材の組み合わせを書き出す。
- 2. それぞれの組み合わせの劣化レベルを記入する。
- 3. その資料にみられる劣化損傷の度合いを判定する。
- 4. おもな用紙の表面の pH を測定し、紙の劣化度合いを判定する。
- 5. 写真記録をとり気づいた劣化損傷の状態をスケッチする。
- 6. 各シリーズごとにデータ入力し統計処理(グラフ化)をする。

♪ポイント 複数人で調査する場合、劣化損傷の判断基準を擦り合わせすること!

#### [参考文献]

金山正子「彩色図面の保存状況調査法」(『元興寺文化財研究所研究報告 2004』2005)

金山正子「新聞紙の寿命-酸性紙を延命する-」(『マテリアルライフ学会誌 Vol. 16 No. 2』2004)

(財)元興寺文化財研究所「保存対策マニュアルー記録素材別劣化症状の特徴と保存対策」

(『アーカイブズ第11号』 (国立公文書館) 2003)

(財)元興寺文化財研究所「保存対策マニュアルー支持体別劣化症状の特徴と保存対策」

(『アーカイブズ第10号』 (国立公文書館) 2002)

(財)元興寺文化財研究所「保存対策マニュアルー時代別劣化症状の特徴と保存対策」

(『アーカイブズ第9号』 (国立公文書館) 2002)

金山正子「紙資料を保存する一状態調査法と保存管理プログラムの策定」

(『元興寺文化財研究所研究報告 2001』 2002)

金山正子「公文書にみられる記録材料の変遷」(『兵庫のしおり第3号』(兵庫県県政資料館)2001)

(財)元興寺文化財研究所「国立公文書館所蔵公文書等保存状況等調査―第二次調査報告書―」

(『アーカイブズ第6号』 (国立公文書館) 2001)

(財)元興寺文化財研究所「国立公文書館所蔵公文書等保存状況等調査―調査報告書―」

(『アーカイブズ第4号』(国立公文書館)2000)

資料保存状態調査

# 一調査マニュアルー

# 国文学研究資料館短期 実習配布用

2017年11月17日

(財) 元興寺文化財研究所

「資料保存状態調査」の流れ

# **抽 出 調査対象の資料をサンプリングする**

棚場所など一定の抽出方法をきめて、調査対象を無作為に抽出する。

# 観察 抽出した資料1点ずつの劣化損傷状態を記録する

概要調査(記録票の表面)

資料名、種類、形態、寸法、本紙の種類、記録方法、劣化状況などの項目について 調査票に記入する。

詳細調査(記録票の裏面)

さらに、その中から、シリーズの特色を示すものや、とくに劣化損傷のみられるものは、劣化度調査や pH 値測定などの詳細調査をおこなう。

# 分 析 調査結果を分析する

1点ずつの調査結果を分析し、各シリーズごとの特徴を把握する。さらに、調査対象の何%が傷んでいるか(量的把握)、どのような損傷が多いか(状態把握)などを検討して、全資料の傾向を推定する。

# 報告 報告書を作成する

分析結果をまとめ、必要な代替措置や保存手当ての優先順位を想定する。

# =作業の手順=

- ① 「請求番号・作成年代・簿冊名・種類・配架・形態・寸法・厚さ・調査日」を記入する。
- ② その簿冊にある「本紙の種類」と「記録方法」の組み合わせを線で結ぶ。
- ③ さらに、その中で、主な組み合わせ15組を罫線に書き出し、記録方法の劣化度を「O・
- 1・2・3」の4段階で判定する。(判定基準は「資料の劣化状況」と同じ。)

#### 本紙の種類の特徴

#### A 和紙罫紙

機械漉き和紙に罫線の印刷された用紙。(柱のみ印刷された用紙は「和紙」に分類。)

#### B 和紙

日本伝来の方法でつくられた紙。コウゾ、ミツマタ、ガンピなどのじん皮繊維を原料として作る。繊維が長く、しなやかで丈夫である。手漉きの和紙は、透かすと簾の目・糸目がみえる。 明治以降には、わらや木材パルプなどの混入した機械漉き和紙が製造されている。

#### 0 洋紙罫紙・上質紙

上質紙に罫線の印刷された用紙。(柱のみ印刷された用紙は「洋紙・上質紙」に分類。)

#### P 洋紙罫紙·中·下級紙

中・下級紙に罫線の印刷された用紙。(柱のみ印刷された用紙は「洋紙・中下級紙」に分類。)

#### F 洋紙·上質紙

機械パルプがまざらない化学パルプだけで作られた洋紙。色が白く、変色しにくい。

#### G 洋紙·中下級紙

化学パルプに機械パルプをまぜて作られた洋紙。再生紙やわら半紙、ザラ紙など。変色しやすく、酸性のものが多い。劣化していくると硬化したり、周囲に亀裂が入りやすい。

#### Ⅰ タイプ用紙

ここでは、とくに英文タイプなどに多用されている半透明のタイプ紙を分類する。茶変色してぱりぱりと硬化してくる。

#### Q 感熱紙

ワープロやファックスの打ち出し用紙に使われる用紙。熱によって、線や文字が黒く印字される。 光にあたると褪色してくる。

# J 新聞紙

木材パルプを多く含む下級紙で、新聞印刷されたもの。酸性が強く茶変色や硬化しやすい。

#### L コート紙

写真印刷などに使用される平滑な洋紙。原紙の表面に顔料を塗布して平坦にし、印刷適正を向上させている。水分を含むと頁同士が固着しやすい。

#### M 写真

写真一般の紙焼き。劣化すると、白黒写真は銀鉛の浮き上がるものや、初期のカラー写真は褪色してくる。(写真に書き込みがなければ、記録方法は「S その他(記入なし)」とする。)

#### N その他

上記にあてはまらない特殊な用紙は、その名称、あるいは特徴を注記する。 また、添付資料などに紙以外の素材がある場合も注記しておく。[ex.写真ネガ、フロッピィ等]

#### 記録方法の特徴

# a 鉛筆

黒鉛筆、色鉛筆書きのもの。通常は変色しないが、すれて読みにくくなっているものがある。

#### b 墨

墨書きのもの。変色はしにくいが、墨質によっては、粉状に劣化しているものがある。

# c 朱

朱墨書きのもの。加筆・訂正などに多い。変色しにくいが、剥落やにじみやすいものもある。

# d ボールペン

黒、青、赤のものが多い。変色はしにくいが、油分のにじみでやすいものがある。

#### е 黒インク

インクには、水溶性・中性(顔料)・油性がある。水溶性は光や水に弱く、褪色しやすい。油性 は溶剤によっては紙に影響がある。中性は比較的安定している。

# f 青インク

なかには色移りや褪色しやすいものがある。ブルーブラックインクは比較的強いが、インク中の酸性物質が紙を侵し、「インク焼け」と呼ばれる文字部分の紙が抜け落ちる劣化を生じる。

#### g 赤インク

赤色はとくに褪色しやすい。色移りやにじみのでやすいものもある。

#### h カーボン

カーボン紙を使った複写をさす。原紙は、筆記のものやタイプ打ちのものなどがある(原紙の場合は、その記録方法をとること。)1970年代前後から使用されるノンカーボン紙もこの中に含む。

#### i 印刷

印刷物。活版印刷やオフセット印刷などの種類がわかれば( )に注記する。

# jガリ刷り

蝋引きの原紙に鉄筆で文字などを書いて蝋を落とし、その部分から印刷インクをにじみださせて 印刷したもの。原紙にタイプライターを使う場合もある。謄写版・鉄筆版などともいう。

#### k 木版

木板に文字や絵を彫りつけて刷ったもの。文字部分が凸版の板目印刷になっているものが多い。 **1電子コピー** 

一般的な機械複写。初期のものにはトナーがこすれ落ちるものがある。

「カラーコピー」は、将来的な褪色のおそれもあるので、「S その他(カラーコピー)」とする。

# m こんにゃく版

明治10年代に導入された印刷方法。メチルバイオレットというインクで書いた紙をこんにゃくの面に押し付けてインクを乗せ、その上に湿らせた用紙を密着させて文字を転写印刷する方法。後には、膠とグリセリンを平皿に流し込んで固めたものを使用した。寒天版ともいう。光に弱く非常に褪色しやすい。

# n 青 図

感光性鉄化合物を上質紙に塗布した感光紙で図面を複写したもの。青地に白抜きで線や文字が謄写される複写方法。設計図などに多く見られる。光に弱く非常に褪色しやすい。褪色してくると、 青地の部分が薄いピンク色になってくる。

# ο 青焼き

感光性ジアゾ化合物を上質紙に塗布した用紙に、文字や図を複写したもの。白地に青地で線や文字が謄写される複写方法。ジアゾコピーという。光に弱く非常に褪色しやすい。 茶褐色や黒色のものもある。

# р 湿式コピー

現像液をとおす初期のコピー方法。光にあたると文字部分が褪色してくる。一般的には、酸化亜 鉛紙を使用したものをさすことが多い。劣化すると銀鉛が浮き上がって見える。

# q スタンプ

木やゴムで作った文字版にインキをつけ転写したもの。インキの種類によって色移りやにじみが

みられる。

# r 彩色

顔料や、カラー印刷などの彩色資料。その彩色方法を()に注記する。顔料は、剥落・紙焼けなどの劣化を生ずるものもある。幕末・明治期になると水性顔料などが使われだし、変色、にじみが多く見られる。

# s その他

上記にない特殊な記録方法は、その名称や特徴を注記する。

=MEMO=		   I
		! ! !
		1
		i
		i i
		; i !
		į
		1
		1 1 1
		i i
		1 !
		; ; ;
		1 1
		; ;
		1
		1
		1
		i i
		; ;
		1
		į
		1
		i i
		1 !
		; ; ;
		1
		1
		i I
		; i i
		1 !
		i 1
		; ; ;
		1 1
		; ;
		i 1
		!

「資料の劣化状況」のチェックは、「O・1・2・3」の4段階でそれぞれの劣化の度合いを 判定する。数字が大きいほど、状態が悪いものとする。

#### 目安としては、

O:良好な状態。まったく劣化状況のみられないもの。

1:少しあるいは部分的に劣化状況がみられるが、利用には差し支えのない程度のもの。

2:全体的に劣化状況がみられるが、注意をすれば利用に供することのできるもの。

3:かなりの劣化状況がみられ、利用には非常に注意を要するもの。

調査にあたって、とくに注意を要する劣化症状

# A 全体の状態

簿冊全体の状態。何らかの劣化損傷で利用に耐えられないものは「不可」にする。

#### B 虫損

シミ、シバン虫、ゴキブリなどの喰い損。和紙や糊部分を好んで喰い、虫穴で本紙がレース状になり、虫の排出物が固まって本紙同士を固着させているものもある。

#### C 汚損

ほこり、泥、汚水などのよごれ。

#### D 破損

破れ、ちぎれなど。

# E 焦げ

直接焦げる以外にも、火事などの蒸し焼き状態では紙が茶変色して硬化したり、ススで黒く汚れたりしている。

# F 擦り切れ

使用によって、表紙や本紙の端・折り目が擦り切れてくるものが多い。

#### **G 水ヌレ**

水にぬれて、輪じみになった状態。

# H フケ

紙は、繊維と繊維が水素結合によってつながってできている。しかし、長い間湿った状態で放置されると、紙の繊維が水分を含んで膨張し、繊維同士の結合が弱まり、フワフワとした綿状になってくる。このような状態を、紙がフケているという。

# Iカビ

湿気や水ヌレによってカビが生じる。白っぽい乾性のカビと、赤色や紫色の湿性のカビがある。 **J フォクシング** 

紙の表面に顕れる茶色の斑点。カビが一因といわれる。きつね(フォックス)色からきた名称。

#### K 茶変色

酸性紙によくみられる紙の変色。機械パルプにふくまれるリグニンという成分が変色の大きな原因である。また、隣接している紙の影響で変色をおこす場合もみられる。 和紙も、経年によって 茶変色してくる。

#### L亀裂

酸性紙によくみられる劣化の症状。酸性劣化によって紙が硬化し、折り曲げに弱くなって、物理的な力が加わると端から亀裂がはいってくる。

#### M 綴じ紐切れ

冊子の綴じ紐の切れ。糸の強さではなく、糸の切れ方の度合いで判定すること。

# N 金具のサビ

ファイルの金具やクリップ・フォッチギスのサビなど。

# 0 貼合の剥離

巻物や継ぎ紙などの、用紙と用紙の貼り合わせや貼り継ぎ箇所の剥離。

# P 文字の褪色

光や湿気などの影響による文字の褪色。インク、こんにゃく版、青図、青焼き、感熱紙などの褪色を注意する。

# Q セロテープ

セロテープの貼り付け箇所の変色やはがれ。時間の経過したセロテープは粘着力が弱まってはが れていることがあるが、貼り跡が茶色く変色している。

# R その他

上記にあてはまらない劣化の状況があれば、その名称および特徴を注記する。

[ex.製本のくずれ(製本の背の剥離や破れなど)

インク焼け(インク書き部分の文字の抜け落ちなど)

革製本の劣化(革が劣化してぽろぽろと剥離してくるなど)

写真や湿式コピーの銀化(表面が銀色に変色しているもの)

その他、気付いたこと]

# 過去の補修

過去に表紙や本紙の補修がなされているかどうか。ただし、典籍類の綴じ糸変えは含まない。 [ex.裏打ち、部分繕い、など]

# その他の特徴

外見や形態の特徴を記入する。

その他、気付いたことを注記する。

ex.「背革」(洋製本で背表紙が革装丁になっているもの)

「入紙」(用紙が薄手で、中に他紙を重ねて綴じてあるもの)

「貼り込み」(台紙の上に本紙を貼りつけてあるもの)

「継ぎ足し」(窓をあげた台紙に、わずかな糊しろで本紙を貼り足してあるもの)

「箱入り」(簿冊が数点まとめて箱にはいっているもの)

「紙フォルダー」(四方タトウ式の紙帙)

「紙ファイル」(左右に開閉するファイルに書類を上や横で留めてあるもの)

「〇冊紐一括」(〇冊の簿冊を紐でくくっているもの)

「紐くくり」(バラの書類を紐でくくっているもの)

# 酸性紙の問題

洋紙は、その製造過程において印刷インクのにじみ止めにロジンサイズを用いてきましたが、 そのサイズ剤の定着に添加された硫酸バンドが作用し、紙の酸性劣化(紙の茶変色、硬化、亀 裂など)を促進させます。劣化のすすんだ紙は、触れると粉状にポロポロと崩れてしまいます。

資料の劣化損傷状態を客観的に把握し、他と比較するには、共通の判定基準が必要となります。 とくに、洋紙の劣化の場合は、具体的な基準として「紙の劣化度の判定基準」と「pH値測定」 が有効です。

#### 紙の劣化度の判定基準

	10及の刊足坐牛	紙の劣化状態	区分
415			
劣	Excellent	非常に良好な状態	О
化		柔軟性があり、しなやかで折りまげても簡単に折り目のつか	
の		ない状態、すなわち紙の腰がまだ十分残っており、とくに紙	
度		質が良好なもの。	
合	Good	音通に紙質が良好な状態	1
		柔軟性があり、しなやかで折りまげても簡単に折り目のつか	
		ない状態、すなわち紙の腰がまだ十分残っているもの。	
	Fair	折りまげると折り目のつく状態	2
		折りまげると折り目(繊維が切れてしまうような感じの折り	
		目)はつくが、切れてしまうことはない状態。	
	Brittle	折りまげると切れてしまう状態	3
		一回折っただけでポロッと切れてしまうもの。	
	Very Brittle	     くずれかかっている状態	4
		手にとっただけで縁のほうから枯葉のように崩れてしまう状	
		態。また、開くとさっと裂けてくる状態のもの。	
変	中程度までの変	经	0
色	周囲だけ変色し	たもの。	
の	はなはだしい変	 6色	1
度	活字部分、筆詞	B部分まで、全面的に非常に変色したもの。	
合			

(ミシガン大学の3段階判定を改良した国立国会図書館の5段階判定基準に準拠。区分については便宜的に設定した。)

# 紙の表面のpH値の測定方法

紙(文書)の表面を水滴で湿らせ、その部分のpH値をフラットのガラス電極を接続したpHメーターで測定します。測定後の紙の表面は、水シミが残らないように濾紙でしっかりと押さえて乾かします。

# 《参考》

# 洋紙の歴史

- 1450 独のグーテンベルグが印刷機発明
- 1799 仏の Louis Robert 連続抄紙機発明
- 1807 独の Illing ロジンサイズ考案
- 1820-30 ロジンサイズ実用化
- ¦1840 独 F.G.ケラー砕木パルプ(GP)発明
- . 1875 日本で木綿屑を原料として洋紙製造を開始(M8)
- 1880 米で化学パルプ(CP)発明
- 1889 日本で国産の木材パルプの製造開始(M22)
- 1901 教科書用紙が洋紙に切り替わる(M34)
- 1912 日本の洋紙生産料が和紙生産料を超える(T1)

#### 調査票の記入方法

項目	記入内容
概要調査:調査リス	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
請求番号	資料のラベルにある「請求番号」を記入する。[ex.2A-40資 209]
作成年代	資料の作成された年。簿冊の表紙・背表紙などに記載のある場合は、そ
	の年代をとる。数年度にわたるものは、始・終年とも記入する。
調査日	調査票記入の年月日。[00.08.16] (2000年8月16日)
簿冊名	資料の表題。簿冊の表紙、背表紙、見返し、奥付にある表題をとる。
種類	資料の中味の分類。
配架	書架での資料の置き方。
形態	資料の形態の分類。
寸法	本紙の大きさ×厚さ。規格外のものは、縦・横を測る。
本紙の種類	本紙の紙の種類。その簿冊にあるものはすべて丸をする。
記録方法	情報の記録方法。 <b>本紙の種類ごとに、記録方法の項目へラインで結ぶ</b> 。
本紙・記法・記法の	「本紙の種類」と「記録方法」の主な組み合わせ15組を罫線内に書き
劣化	出し、その記録方法の劣化度を「O・1・2・3」の4段階で判定する。
資料の劣化状況	その簿冊にみられる劣化損傷の項目すべてに丸をつけ、それぞれの劣化
	の度合いを判定して丸をする。
過去の補修	過去の補修跡の有無を丸し、補修跡が「有る」場合は、その種類を注記
	する。[ex.裏打ち、部分繕い]
その他の特徴	調査の間に気付いた簿冊の外見的な特徴などがあれば記入する。
	の中からさらに抽出した簿冊について詳細な保存状態を調査する。
紙の劣化度調査	
年代	劣化度を判定する本紙の年代を記入する。
用紙の種類	調査箇所の用紙の種類を記入する。[ex.〇〇省起案用紙]
(写真 No.)	調査箇所を撮影した写真番号を記入する。
紙の種類	調査箇所の紙の種類の記号を記入する。
記録方法	調査箇所の記録方法の記号を記入する。
劣化の度合い	「紙の劣化度の判定基準」にならって、点数を記入する。
変色の度合い	「紙の劣化度の判定基準」にならって、点数を記入する。
pH値	pHメーターで紙のpH値を測定し記入する。
pH値測定箇所	pH値を測定した箇所を記入する。
劣化損傷の特徴	その簿冊の劣化損傷について、スケッチや損傷状態をメモする。
その他の記録	
必要な保存処置	将来的に必要と思われる保存処置に○をつける。
	詳細調査の調査日と記入者を記入する。
Memo:	

# インクの鉄イオン試験

没食子インク(Iron gall ink)の歴史的な製造レシピや劣化についての研究は、ヨーロッパ圏ではすでに専門的に進められている。また、その研究成果はワークショップやウェブサイトなどでも公開されており、簡単に情報を入手できるようになった(1)。没食子とはブナ科植物の若芽にできるこぶでタンニンを多く含み、鉄硫酸塩、ゴム、水などと配合し、中世以降に多種多様なインクが造られた。

鉄分の酸化が進行することにより、インクの茶変色、裏面への移り、インク部分の硬化、結晶

化、亀裂、欠落などの劣化症状が顕著になってくる。EU 圏共同研究プロジェクトである InkCorのワークショップで紹介されたインク劣化の判定方法 <sup>(2)</sup> に準拠して、実際の資料における判定を判りやすくするために、説明を補足したものが表 1 である。

レベル	状態	裏面にみられる症状
1	Good Condition	変色がないか、あってもインクの線に沿ったごく薄い茶色の変色に とどまっている。
2	Fair Condition	インクの線に沿った濃い茶色の変色がみられる。破損はみられない。
3	Poor Condition	亀裂や欠落がみられるが、取り扱いはできる状態。
4	Bad Condition	欠落が多く、取り扱いができない状態。

表1 インク劣化の判定基準

#### インク劣化の抑制と強化

ヨーロッパ圏では(最近は日本でも)、フィチン酸塩たとえばフィチン酸塩カルシウム水溶液による紙資料の抗酸化剤処理が実用されている。紙以外の文化財の場合でも、鉄製品や銅製品の抗酸化処理に金属イオンの封鎖剤であるキレート剤を使用することは常用されている。

また、紙とインクの抗酸化処理ができても、すでに扱えないほど脆弱になってしまった資料の強化には、裏打ちや漉嵌などの裏面からの物理的な強化処置がさらに必要である。しかし、熊楠資料のように両面に余白のないほど文字の書き込まれた資料は、裏面からの強化が不可能であり、実際的にはペーパースプリットによる資料の表裏を剥いで間に補強紙を挟む最終的な強化が残された可能性である。国内におけるペーパースプリット技術の安定化が今後必要とされるところである。

- (1) The ink corrosion website <a href="http://www.knaw.nl/ecpa/ink/">http://www.knaw.nl/ecpa/ink/</a> InkCor workshop <a href="http://www.infosrvr.nuk.uni-lj.si/">http://www.infosrvr.nuk.uni-lj.si/</a>
- (2) InkCor workshop は 2004 年 11 月 16  $\sim$  20 日にスロベニアで開催された。インク劣化の判定 基準は Birgit

ReiBland "Ink Corrosion – The Side Effects Caused by Aqueous Treatments for Paper Objects", Iron Gall Ink Meeting, Sep. 2000

- 62 -	
--------	--

	_	
(	J	١
(	د	٥

			資 料 保	存 状	. 態調	直票	(研修用)		No.	
資料	番号		作成年代	1.M 2.T 3	.S 4.H 9.	年 ~ 1.M	2.T 3.S 4.H 9.	年	調査日 .	
簿冊	名									
種	類	1. 公文書 2. 和書(和綴	じ) 3. 和書(洋装)	4. 漢籍	5. 洋書	6. その他(	) 配架	1. 縦置き	き 2. 横置き	
形	態	1. 簿冊(和綴じ) 2. 簿冊(	洋装) 3. ファイル	4. 巻物	5. 袋物	6. 筒•箱物	7. 一枚物(折り物を	を含む) 8.	その他(	)
코	法	1. A6 2. B6 3. A5	4. B5 5. A4	4 6. B4	7. A3	8. その他 (縦	mm × 横	mm) 厚	さ	mm

本紙の種類	記録方法	本紙 記	法記法の劣化	資料の劣化状況
A 和紙罫紙	a. 鉛筆			A 全体の状態 O. 優 1. 良 2. 可 3. 不可 あしのおは
B 和紙	b. 墨			
0 洋紙罫紙・上質紙	<u>c. 朱</u>			B 虫損 O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
P 洋紙罫紙•中下級紙	d. ボールペン			C 汚損 O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
F 洋紙·上質紙	e. 黒インク			D 破損 O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
G 洋紙•中下級紙	f. 青インク			E 焦げ   O. 無   1. 弱   2. 中   3. 強     F 擦り切れ   O. 無   1. 弱   2. 中   3. 強
Ⅰ タイプ用紙	g. 赤インク			F 擦り切れ O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強 G 水ヌレ痕 O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
Q 感熱紙	h. カーボン			H フケ O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
J 新聞紙	i. 印刷 ( )			I カビ O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
L コート紙	j. ガリ刷り			J フォクシング O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
M 写真	k. 木版			K 茶変色 O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
<u>n J</u>	1. 電子コピー			L 亀裂 O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
N その他				M 綴じ紐切れ O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
				N 金具のサビ O. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
① ( )	n. 青図			0 貼合の剥離 0. 無 1. 弱 2. 中 3. 強
② ( )	<u>o. 青焼き</u>			P 文字の褪色 O. 無 1. 判読可 2. 薄い 3. 判読不可
( )	p. 湿式コピー			Q セロテープ O. 無 1. 変化無 2. 変色 3. はがれ
	q. スタンプ			R その他 製本のくずれ等(
	r. 彩色 ( )			過去の補修 O. 無 1. 有り( )
	s. その他①( )			その他の特徴(外見の特徴)
	②()			
		1		記入者

# - 64-

# 紙の劣化度調査

年代	用紙の種類	(写真 No.)	紙の 種類	記録 方法	7	本紙の劣化の度合い		本紙の劣化の度合い		本紙の劣化の度合い		変色の 度合い	pH値	pH 測定箇所
					4	3	2	1	Ο	0 1		1.小口下 2.他( )		
					4	3	2	1	Ο	0 1		1.小口下 2.他( )		
					4	3	2	1	Ο	0 1		1.小口下 2.他( )		
					4	3	2	1	Ο	0 1		1.小口下 2.他( )		
					4	3	2	1	Ο	0 1		1.小口下 2.他( )		

劣化損傷の特徴 ( / )・解綴の記録 ( / )・再編綴の記録 ( / )	その他の記録		必要な	な保存処置	
			— A	首入れ	
			В #	対筒入れ	
			_ C 約	器じ直し	
			D 🕏	金具類の除去	
			E t	2ロテープの除去	ā
			F	マイクロ化	
			- G ₫	<b>愛性紙の中和処理</b>	<u> </u>
			H 俳	多復	
			I ā	その他	
			(		)
			-		
			_		
			1		
	 	<b>\$</b> D	<u> </u> 記入者		
	75 TU X 1019 E		10//0		

(財) 元興寺文化財研究所

# 8. アーカイブズの公開と普及活動

研究部 加藤 聖文

本講義では、アーカイブズの公開と閲覧者へのサービスのあり方を考える。具体的には、情報公開法・個人情報保護法・著作権法・公文書管理法といった法的側面から見た公開基準のあり方について議論する。さらに、公開と密接不可分な「普及」についても、地域の特性を踏まえたモデルを提示しつつ、「収集」も含めて考える。最後に、以上を踏まえて、博物館・図書館・文書館(MLA)連携の可能性を含んだこれからの社会貢献のあり方について議論を深めていく。

# I. 公開のあり方-公開基準の視点から

#### A. 公文書の公開基準 (最近の傾向)

- ◎国立公文書館
- ・独立行政法人国立公文書館利用等規則(平成23年4月1日規程第4号)

http://www.archives.go.jp/information/pdf/riyoukisoku\_2011\_00.pdf

・独立行政法人国立公文書館における公文書管理法に基づく利用請求に対する処分に係る審査基準 (平成23年4月1日館長決定)

http://www.archives.go.jp/information/pdf/riyoushinsa\_2011\_00.pdf

- ◎地方公文書館
- ・北海道立文書館・沖縄県公文書館などの公開基準の比較検討
- \*情報公開法第5条(行政文書の開示義務)との関連性
  - …「個人情報」とは何か?⇔「個人情報保護法」との違い
- \*30年原則の普及
- \*立法機関・司法機関など非行政機関の場合(情報公開法・個人情報保護法の対象外)

#### B. 私文書の公開基準

- ◎私文書における個人情報
- ◎私文書における著作性:原稿・日記・手紙

#### C. 収集資料の提供

- ◎目録の理想像:海外の現場から
  - \*効率性と速報性…必要最小限度の情報提供⇔日本は細かすぎ!

# Ⅱ. 普及のあり方-地域の特性の視点から

# A. 「見せる」ことよりも「触れる」ことの重要性

◎アーカイブズの強みとは:博物館との違いをいかに伝えるか? 保存<普及

# B.「歴史」よりも「現在」を説明する意味

- ◎「歴史の教養」から「社会の仕組みの理解」へ \*学校教育への活用、行政改革の具体的説明
- ◎個人資料の活用方法 \*地域の誰もが主人公、地元名士的発想からの脱却
- ◎何を集めるのか\*アーカイブズは名も無き庶民の記録の受け皿

#### Ⅲ. これからのアーカイブズ

- ◎震災後の記録概念の変容
  - \*電子記録が主役に:デジタル写真・映像・ブログ 即時性による記録の作成・保管:誰もがアーキビスト
  - \*地域の記憶を伝えることとは? →既成概念の転換期を迎えて
- \*参考文献・資料は講義にて紹介します。

# 1. 地域とアーカイブズ

尼崎市立地域研究史料館 河野 未央

# 講義要旨

尼崎市立地域研究史料館(以下、史料館)では、「市民文書館」の理念を掲げ、職員はその実現を目指し日々の業務に取り組んでいる。その業務の大きな特徴としてあげられるのは、レファレンスの重視である。長年取り組んできた成果は少しずつ実を結びつつあるものの、一方で、地域のアーカイブズを取り巻く現状は日々その厳しさを増しており、史料館も例外ではない。

本講義では、地域におけるアーカイブズ施設の一例として、尼崎市立地域研究史料館(以下、史料館)の実際の運営を紹介しながら、その成果と課題を述べ、現代の地域におけるアーカイブズの意義を考えるための素材を提供したい。

# 参考文献【図書】

和泉市史紀要第23集『第四回地域史惣寄合報告集 地域の全体史と現代』

(和泉市史編さん委員会、2016年)

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』(岩田書院、2013年)

# 参考文献【論文】

石川道子ほか「座談会 史料館を利用する、史料館でボランティア」

(尼崎市立地域研究史料館紀要『地域史研究』92、2001年)

久保庭萌「レファレンスから、つながる-尼崎市立地域研究史料館におけるレファレンス・サービス 発信の取り組み―」(『記録と史料』第22号、2012年)

近藤浩二「ユニークな文書館―尼崎市立地域研究史料館」(『歴史と神戸』271、2008年)

辻川敦「アーカイブズ私論」(『レコード・マネジメント』50、2005年)

辻川敦「日本における市民文書館の理念と実践」

(尼崎市立地域研究史料館紀要『地域史研究』112、2012年)

辻川敦・久保庭萌「市民とともに歩む尼崎市立地域研究史料館の取り組み」

(『アーカイブズ』51、2013年)

松岡弘之「尼崎市における歴史的公文書の保存と活用」

(『住民と自治』2016年10月号、自治体問題研究所、2016年)

森本米紀「市史をひらき、史料館につどう」

(尼崎市立地域研究史料館紀要『地域史研究』109、2010年)

# 講義内容

#### はじめに

「地域文書館」「草の根文書館」「市民文書館」市町村レベルの文書館のあり方

1. 尼崎市立地域研究史料館(以下、史料館)の事業

#### 1-1 史料館の組織

地域研究史料館事業年表

昭和37年(1962)6月 尼崎市史編集事業開始、編集事務局設置

(昭和 44 年 4 月 市史編修室と名称変更) 昭和 41 年 10 月 『尼崎市史』第1巻刊行

# 昭和 50 年 1 月 10 日 尼崎市立地域研究史料館開館

市史編集の過程で調査・収集した史料を保存・公開する文書館施設として、尼崎市総合文化センターの7階に開設。市立文書館としては神奈川県藤沢市(昭和49年7月開館)に次いで国内2番目。

昭和63年3月 『尼崎市史』第13巻刊行、『尼崎市史』完結

平成8年(1996)3月『尼崎地域史事典』刊行

平成8年4月 新「尼崎市史」編集事業(市制80周年記念振興事業)開始

平成 19 年 1 月市制 90 周年記念『図説尼崎の歴史』刊行平成 28 年 10 月市制 100 周年記念『たどる調べる尼崎の歴史』

及び『尼崎の歴史ダイジェスト版』刊行

#### 1-2 史料館の役割

▶ 史料館の「業務改革」→「市民文書館」へ

「市民文書館とは・・・「社会に内在化し、広く市民社会の理解と協力を得て支えられる文書館」 「文書館が社会に根付き、広がっていくためには、史料の利用、文書館の利用を通して事業の必要性・有効性に対する市民社会のコンセンサスを得ていくことが重要」

(辻川敦「日本における「市民文書館」の理念と実践」

尼崎市立地域研究史料館紀要『地域史研究』第112号、2012)

- ◆ 利用・公開を軸とした文書館事業
- 2. 市民文書館の実践―市民とともにあり、市民とともに歩む文書館をめざして―
- 2-1 レファレンス・サービス

「専門的助言は…<u>各アーカイブ機関のすべての活動の心臓部であり、その中心的支点となる閲覧室</u>において行われる。…文書館では通常、閲覧室の責任者が利用者に応対する。それがアーキビストである。」

(マリア・バルバラ・ベルティーニ/湯上良訳『アーカイブとは何か 石板からデジタル文書まで、イタリアの文書管理』、法政大学出版局、2012年)

- ▶ 「相談業務記録票」データベース → NAPS (レファレンスレベルの底上げ)
- ▶ レファレンス協同データベースへの参加 → 新たな利用者を生む(情報発信)
- 2-2「学びの場」として
- ▶ 「尼崎市史」を読む会(市民講座) → 「読まれる」市史
- ▶ 尼崎の近世古文書を楽しむ会(自主学習グループ)
- 2-3 情報発信
- ▶ WEB での情報発信
- ▶ ワークショップの実施(「市民参加」型を意識)

- 2-4 市民ボランティアの活動
- ▶ 利用者から史料館ボランティアへ
- ▶ 史料館ボランティアから利用者へ
- 2-5 尼崎市域での市民のまちづくり「実践」と地域研究史料館
- ▶ 富松のまちづくり
- Code for Amagasaki、みんなのサマーセミナー etc
- 2-6 市史編さんの「持続」
- ▶ 『尼崎市史』『図説尼崎の歴史』『たどる調べる尼崎の歴史』
- ▶ 尼崎市立地域研究史料館紀要『地域史研究』
  - →地域の歴史の調査・研究とその蓄積
- ◆ 理念(「市民文書館」)をもとにした実践(各事業)=相互に影響・有機的に展開
  - 3. 史料館の成果と課題

#### 3-1 成果

- ▶ 利用者からの評価、組織内における評価 → 事業の次のステップへ(人材/事業への「理解」)
- ▶ ネットワークの広がり

#### 3-2 課題

- 3-2-1 歴史的公文書の保存、公開
- ▶ 尼崎市における歴史的公文書の収集・整理・公開
- ▶ 歴史的公文書の「利用」=民主主義の根幹を支える
  - →公文書管理条例・体制の整備
- 3-2-2 民間所蔵史料の保全体制
- ▶ 1995年以降 阪神・淡路大震災と歴史資料ネットワークの活動 →被災史料の受入
- ▶ 個人宅での保管が困難→家の「歴史」とそれを支えるアーカイブズを、捨てるか、活かすか
  - →託される文書/膨大な量の近現代史料→受入体制(保管・整理・公開)の問題
  - →地域における「最後の」受け皿という意識と、それに見合う体制づくり
- 3-2-3 アーカイブズ自体への認知度・理解
- ▶ 学校教育への働きかけ (小学校、大学)
- ◆ 真の意味での「市民文書館」の実現に向けて、その道程はまだまだ長い

#### おわりに

▶ 尼崎市立地域研究史料館の今後について



# 2. アーカイブズの管理と利用

京都府立京都学·歷彩館 大塚 活美

# 講義要旨

本講義では、京都府立京都学・歴彩館(前身施設である京都府立総合資料館)での経験をもとに、 京都府における古文書・公文書等のアーカイブズの管理と利用について述べる。アーカイブズの管理 と利用については、設置主体や施設ごとに状況が大きく異なるので、当施設のこれまでの歩みを紹介 した上で、現状と課題について説明し、今後の展望を述べたい。アーカイブズの管理と利用の一事例 として参考にしていただきたい。

# 参考文献【図書】

京都府立総合資料館編『京都府立総合資料館開館 40 年のあゆみ』(京都府立総合資料館、2003 年) 京都府立総合資料館編『京都府立総合資料館開館 50 周年記念誌』(京都府立総合資料館、2014 年) 京都府立総合資料館編『「京都府 20 世紀資料」整理事業における文書及び資料の保存状況調査報告書』 (京都府立総合資料館、2004 年)

京都府立総合資料館編『「歴史資料としての文書」の保存と活用のために』

(京都府立総合資料館、2005年)

京都府立総合資料館編『史料保存機関等データブック:「京都府20世紀資料」整理事業』

(京都府立総合資料館、2006年)

京都府立総合資料館編『京都府立総合資料館所蔵行政文書簿冊目録、明治元年-昭和 20 年』

(京都府立総合資料館、1973年)

京都府立総合資料館編『京都府立総合資料館所蔵行政文書簿冊目録 2』

(京都府立総合資料館、1987年)

京都府立総合資料館編『京都府立総合資料館所蔵文書解題、改訂増補』

(京都府立総合資料館、1993年)

京都府立総合資料館編『古文書つれづれ&明治の京都』(京都府立総合資料館、2003年)京都府立総合資料館編『京都府行政文書を中心とした近代行政文書についての史料学的研究』

(京都府立総合資料館、2008年)

# 参考文献【論文】

歴史資料課「〈業務報告〉20世紀歴史資料保存事業について」

(『資料館紀要』第30号、京都府立総合資料館、2002年)

小森治夫「京都府における行政文書の引継移管と評価選別」

(『資料館紀要』第23号、京都府立総合資料館、1995年)

渡邊佳子「文書館等における個人情報の取り扱いを考える」(『記録と資料』第9号、1998年)

古瀬誠三「行政文書の提供と制限 -情報サービスの視点から-」

(『資料館紀要』第28号、京都府立総合資料館、2000年)

橋本初子「〈業務報告〉東寺百合文書の補修について」

(『資料館紀要』第1号、京都府立総合資料館、1972年)

歴史資料課「〈業務報告〉東寺百合文書の保存・公開・撮影について」

(『資料館紀要』第12号、京都府立総合資料館、1984年)

歴史資料課「〈業務報告〉東寺百合文書の第二次修理について」

(『資料館紀要』第18号、京都府立総合資料館、1990年)

歴史資料課「〈業務報告〉東寺百合文書のデジタル化とウェブ公開について」

(『資料館紀要』第43号、京都府立総合資料館、2015年)

# 講義内容

はじめに

文書館、博物館、図書館

施設(設置主体、目的、建物、職員数、予算等)により活動が大きく異なる

一事例として参考にしてほしい

# I:歩み

1-1 総合資料館、京都学・歴彩館の歩み

1963年11月 総合資料館の開館(図書館部門、博物館部門)

1965年4月 京都府開庁100年を記念した京都府百年史編纂事業を開始(1972年終了)

1967年4月 東寺百合文書を受入れ、整理・補修事業を開始

1972年6月 行政文書の収集・整理・公開業務を開始(文書館部門)

1977年4月 古文書の公開を開始

1988 年 4 月 博物館部門の業務を京都文化財団(京都文化博物館)に委託(~現在)

2001年5月 京都府立図書館改築にともない同図書館と機能・蔵書を分担

2016年9月 閉館

2016年12月 京都学・歴彩館の一部開館(ホール等)

2017年4月 京都学・歴彩館の一部開館(閲覧室等)

1-2 総合資料館、京都学・歴彩館における公文書、古文書の管理・利用の歩み

#### ① 公文書

1965年4月 京都府百年史編纂事業を開始(~1972年)

1972年6月 行政文書の収集・整理・公開業務を開始

1977年3月 府内市町村行政文書の保存状況調査の開始(~2003年)

1991年 5月 明治期京都府庁文書の緊急補修事業を開始(~199年)

1999年4月 京都府20世紀歴史資料保存事業を開始(~2000年)

2000年4月 京都府20世紀資料整理事業を開始(~200年)

2002年6月 京都府行政文書の重要文化財指定

2009年4月 重要文化財京都府行政文書の修理事業を開始(~現在)

11月 「京の記憶アーカイブ」(<a href="http://www.archives.kyoto.jp/">http://www.archives.kyoto.jp/</a>) による 行政文書目録の提供開始 (~現在)

#### ②古文書

1967年4月 東寺百合文書を受入れ、整理・補修事業を開始

1977年4月 古文書の公開を開始

1977年10月 古文書所在情報調査の開始(~1980年)

1980年1月 東寺百合文書の原本公開

4月 東寺百合文書のマイクロ化事業の開始(~1982年)

6月 東寺百合文書の重要文化財指定

1983年4月 東寺百合文書の第二次修理を開始(~1988年)

1985年 東寺百合文書展の開始 (~2008年)

1997年6月 東寺百合文書の国宝指定

1998年12月 閲覧可能な古文書の所在情報調査を開始(~2002年)

2004年3月 東寺百合文書の翻刻出版の開始(~現在)

2014年3月 東寺百合文書 WEB(http://hyakugo.kyoto.jp/)の公開の開始(~現在)

2015年10月 東寺百合文書が「世界の記憶」に

11月 「京の記憶アーカイブ」(<a href="http://www.archives.kyoto.jp/">http://www.archives.kyoto.jp/</a>) による 古文書目録の提供開始 (~現在)

#### ③ 普及

1970年8月 古文書講習会の開始(~2002年)

1981年9月 古文書教室の開始(~2002年)

1984年4月 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会に加入(近畿部会は1993年5月から)

1987年5月 古文書相談の開始(~199年)

2002年5月 総合資料館府民講座の開始(~2010年頃)

11月 古文書解読講座の開始 (~2008年)

2004年4月 デジタル公開の開始

2009 年 8 月 古文書入門教室の開始 (~2013 年)

9月 歴史資料カレッジの開始 (~2011年)

2012年3月 歴史資料解読講座の開始(~2014年)

1-3 総合資料館、京都学・歴彩館における公文書、古文書の組織、体制、人員 ①組織・体制

歩みとしては博物館部門の中からスタート

古文書と行政文書の2組織。古文書は東寺百合文書と近世文書の2担当

歴彩館では資料課内の2担当(公文書担当、古文書・古典籍等特別資料担当)の内に

増員の時代、減員の時代

②人員

Ⅱ:総合資料館、京都学・歴彩館における公文書、古文書の現状と課題 2-1公文書の場合

収集 本庁知事部局の永年文書、有期限文書を毎年収集 永年文書は完結後 25 年を経たものを当館に移管 有期限文書は当館職員が選別して収集

整理 受入れ手続き(簿冊目録の作成)、件名目録の作成 掃除、簿冊番号ラベル貼付、排架 目録データ公開 収蔵 本館収蔵庫、中間書庫(市内)

閲覧 来館による閲覧、ネットによるデジタル閲覧

課題 電子文書の受入れ (現在は0件)

デジタル公開の推進

収集の範囲の拡大(知事部局の地方機関の文書、知事部局以外の文書)

#### 2-2 古文書の場合

収集 寄贈の申し出のあった文書を収集 売りに出された文書を古書店から購入して収集

整理 受入れ手続き(文書目録、文書解題の作成) 掃除、文書番号ラベル貼付、収納箱の配架 目録データ公開

収蔵 本館収蔵庫

閲覧 来館による閲覧、ネットによるデジタル閲覧

課題 デジタル公開の推進

Ⅲ:京都府域におけるアーカイブズの現状と課題

3-1 公文書の場合

国の文書 大学等は大学で収蔵

府の文書 一部のみ歴彩館で収蔵

市町村 各市町村で収集・管理

団体 団体ごとに収集・管理

企業 企業ごとに収集・管理

← 府域全体の連携、ネットワークの組織は作れていない

#### 3-2 古文書の場合

(京都の地域的特性)

近世・近代文書だけでなく、古代・中世文書を持つ寺院等が多数ある

大量の文書を持っている寺院等が多数ある

収集する機関・組織が多数ある

国、府、市町村の機関、大学、研究所、他府県の施設・研究所

京都府という枠組みと京都市という枠組みの難しさ

売買、人の移動により他府県に移った文書が多数ある

- ← 府域全体の連携、ネットワークの組織は作れていない
- 〇総合資料館で、他機関で閲覧可能な古文書の所在調査をしたときの記録が

「京都府域関係古文書所在情報の一整理 近世領主並びに近世村町別閲覧可能関連文書一覧」として 『資料館紀要』第27号(1999年)~第32号(2004年)に掲載

- ○京都府文化財保護課では、指定文化財、登録文化財についで暫定文化財の制度を創設 (未指定文化財に新たな網を掛ける取り組み)
- ○NPOグループなどによる古文書解読

# おわりに

○京都学·歴彩館

課題は山積している

公文書館法、公文書管理法に基づく組織·体制の充実 ほか 今後の展望

府域全体として見た時に、アーカイブズセンターの機能を果たせるか?

# 配布資料

京都学・歴彩館リーフレット

- 76 -
--------

# 統括総論

研究部 青木 睦 研究部 加藤 聖文

# 平成 29 年度アーカイブズ・カレッジ テキスト

(史料管理学研修会講義要項) 平成 29 年(2017) 10 月 10 日 作成

〒190-0014

東京都立川市緑町 10-3

人間文化研究機構国文学研究資料館 アーカイブズ・カレッジ修了論文指導教員編集

TEL.050-5533-2910 / FAX.042-526-8606

国文学研究資料館管理部総務学術情報課企画広報係